

律全書三百十八帖)左ノ規則ヲ發シタリ

④千八百七十五年十二月廿日ノ規則ヲ實施スル千八百七十六年二月九日布達及ヒ千八百七十八年五月九日改正布達(中央官署ノ公告紙千八百七十六年ノ八十七帖及ヒ千八百七十八年ノ二百六十一帖)

⑤千八百七十九年五月廿八日ノ郵便ニ對スル鐵道ノ義務規則(中央官署ノ公告紙三百八十帖)

郷ニ於ケル出納法ニ付テハ千八百八十一年二月廿七日ニ千八百五十三年五月三十日ノ郷規則第七十六條ニ因リ「ボツダム」縣内務部ヨリ布達ヲ發シタリ

其第七十六條ニ因レハ直接ニ郷ノ事件ヲ監督スル者ハ縣廳事務規則(千八百十七年十月廿三日ノ縣廳事務規則法律全書二百四十八帖ノ一第二條第五)ニ因リ内務部ニテ爲スヘシ然レモ内務部ハ千八百八十年九月廿六日ノ行政法ノ第十七條ニ因リ千八百八十一年四月一日ヨリ之ヲ廢シ縣令ニテ其事務ヲ掌ルヘキモノナレハ已後ハ縣令ヨリ已上ノ布達ヲ發スヘキナリ「ボツダム」縣ニ於テハ其内務部ヲ廢スル前ニ州長及ヒ縣令ト協議ノ上同年二月ニ其布達ヲ發シタリ何トナレハ當時出納法ヲ設クルコトノ誠ニ必要ナルコトヲ信シタルニ千八百八十一年四月一日ヨリ郷ノ行政ニ如何ナル變革ヲ來スヤ豫メ之ヲ知ルコト能ハス且實際延期スヘカラサル出納法ヲ發セスシテ下院ニ於ケル地方行政權限法ノ議決ヲ待ツコト能ハサレハナリ(地方行政權限法ハ議決ニ至ラザリ

シ其布達ハ已ニ同年四月一日ニ郷官ニ廻送シ速カニ之ヲ公告シタリ其布達ノ説明ハ法律ノ効力ヲ有セス止タ布達ノ適用スヘキモノニシテ近日之ヲ郷官ニ廻送スヘシ

郷ノ出納法ニ係ル著述ハ誠ニ不十分ニシテ之ヲ以テ出納ノ設立法ノ利害ヲ判定スルコト能ハス郷ニ於ケル出納法ハ實際ノ經驗ニ因テ次第ニ全備シタル者ナレトモ政府ノ出納法ニ係ル規則ハ其郷ニ於ケル出納局ノ異ル所ニ注意シテ之ヲ郷ノ出納法ニ適用スルコトヲ得ルハ勿論ナリ東諸州ニ於ケル政府ノ出納局ハ納稅者ヨリ直チニ稅ヲ徵セスシテ團結ヨリ總稅額ヲ取立テ又團結ハ土地抵當銀行ヨリ或ハ州内火難保險組合ヨリ稅ヲ取立ツルヲ常例トス故ニ政府出納局ニ通スル規則ナシ

出納法ヲ整頓スル爲メ各縣ヨリ布達ヲ發シタリ然レモ其布達ハ出納法ノ詳細ヲ定メス止タ其大略ヲ定メタルモノナレハ如何ナル方法ヲ以テ實際出納ヲ爲スヘキヤ及ヒ如何ナル方法ヲ以テ其布達ヲ實施スヘキヤハ通常其布達ニ掲ケタルモノナシ故ニ縣廳ヨリ發シタル布達中往々之ヲ實施セサルモノアリ何トナレハ如何ナル方法ヲ以テ實施スヘキヤ否ヲ明細ニ掲ケサルヲ以テナリ

如シ此布達ヲ以テハ實際出納法ヲ整頓シ能ハサレハ出納官吏ハ又千八百五十三年五月三十日ノ郷規則第五十八條ノ第一ニ因リ郷内行政ノ責任ヲ負フヘキ郷長タリトモ便宜ニ其出納ヲ整頓スルコトヲ得ヘキ方法ヲ設クヘキコトヲ必用ナリトシタリ

郷ノ出納ハ其情況ノ異ナルニ因リ(此郷ニ於テハ土地ヲ有スレモ
 彼ノ郷ニ於テハ之ヲ有セス又此郷ニ於テハ其所有地ヲ貸付クレ
 モ彼ノ郷ニ於テハ自カラ之ヲ耕作シ又此郷ニ於テハ專ハラ山林
 ヲ有スレモ彼ノ郷ニ於テハ之ヲ有セス又此郷ニ於テハ瓦斯製造
 場又ハ資本等ヲ有スレモ彼ノ郷ニ於テハ之ヲ有セサルカ如シ)
 其方法ヲ異ニシ又郷ハ郷規則第九條ニ因リ自治ノ權ヲ有シ政府
 ノ官署ヨリ故ナク之レニ關涉ス可カラサルモノナレハ出納ノ大
 小ニ拘ハラス之ヲ整頓スヘキ普通ノ方法ヲ設ケ之ヲ實施スルハ
 各郷ニ委子サル可カラス然レモ如何ナル方法ヲ以テ實施スヘキ
 ヤ否ヲ知ラシメンカ爲メ布達ニ說明ヲ付シ出納記簿法ヲ掲ケ詳
 細ニ之ヲ實施スル方法ヲ説明スヘシ

其布達及ヒ說明ノ趣意ヲ舉クレハ左ノ如シ

- 一 出納局ノ大小ニ拘ハラス遵奉スヘキ普通ノ方法ヲ定ムヘキコ
- 二 各郷ノ情況ニ應スル出納法ヲ設クルコトヲ妨クヘカラサルコ
- 三 出納法ヲ整頓セシムルコトヲ知ラサル郷官ニハ說明ヲ以テ其
 方法ヲ教フヘキコ

布達ノ箇條及ヒ書式等ハ數年來ノ實驗ニ因テ之ヲ設ケタルモノ
 ニシテ已ニ此法ヲ實行シタル郷アリ說明ヲ爲スニハ未タ如此說
 明アラサルヲ以テ新タニ之ヲ作ルヘシ又出納法ヲ言語ニテ說明
 スルハ甚タ難ク況ヤ小ナル郷ニ於ケル郷長ハ十分ノ教育ナク且
 出納法ヲ知ラサレハ便利ナル出納法ノ說明ハ甚タ難キモノナリ

他人ノ山林ニ於テ木葉ヲ拾取規則 千八百四十三年三月五日(法律全書百五帖)

一 第一條ハ其意義ヲ掲ケリ

千八百四十九年十月九日ノ大審院判決ニ因レハ(十八卷二百七十九帖)木葉拾取權ノ要點ハ權利者ノ需求ニ從テ其權ヲ制限スルニ在リ故ニ其權ノ範圍ヲ定ムルニハ權利者所有ノ土地ニ於テ拾取ルコトヲ得ヘキ木葉ヲ除去スヘシト此判決ハ千八百五十年三月二日ノ法律第四條ニ採用シタリ(法律全書百二十九帖)

千八百六十七年十月三十一日ノ大審院判決ニ(ストリトホルスト)氏判決録六十八卷二百三十二帖)ニ因レハ木葉ヲ拾取ル權ノ要點ハ肥料ヲ作ランカ爲メ木葉ヲ獸類ノ茵草ニ使用スルニ在リ故ニ其權ハ獸類ヲ牧養セサルカ又ハ肥料ヲ要セサル土地ニ附著ス

ルコナシ

二 第四條ノ説明

千八百四十八年二月廿四日ノ大審院判決ニ因レハ(判決録十六卷二百八帖)木葉ヲ拾フ權ヲ使用スルニハ(同規則第二條)山林ノ培植及ヒ使用ニ適スヘシ普國法律全書ノ第一篇第二十二章ノ第八十條第百七十一條第百十三條及ヒ第一篇第十九章第十七條ニ因レハ使用權ハ義務ノ附著シタル土地ノ使用ヲ害セサルヘク使用スヘシ其原則ハ千八百八十一年九月十四日ノ農業規則第二十七條ニ明記セリ故ニ使用權ハ必ス山林ノ培植ヲ害スヘカラス又其需求ハ山林ノ培植ヲ害セサルニ非サレハ之ヲ充タスコトヲ得ス山林警察規則ハ公益ヲ圖ルモノナレハ山林所有者ト雖モ之

ノイハツス氏說明中

ヲ遵奉スヘシ若シ所有者ニ於テ犯則者ヲ默許シタルモ之ニ因テ其規則ノ効力ヲ變スルモノニ非ス山林警察ノ權ハ數年間之ヲ行ハサルモ失フモノニ非ス第二條第四條及ヒ第七條ハ後來ノ爲メ山林警察ノ權ヲ掲ケタルモノニシテ舊來ハ之ヲ掲ケサリシ且舊來ノ原則ハ農業規則第二十七條ニ掲ケタル者ニ限り山林使用權ニ適用スヘシト雖モ古來山林使用權ニ係ル原則ニ背クヘカラス止タ古來使用權ヲ濫用シテ山林ノ培植ヲ害スヘキモノハ其權ヲ失フヘシ

如此使用權ヲ判定シタル上更ニ千八百六十一年六月十六日ノ判決ヲ以テ愈々之ヲ確メタリ(「ストリトホルスト」氏判決錄ノ四十二卷二百六十二帖)

則木葉ヲ拾フ權ニ在テハ其權ヲ失ヒタル者ハ勿論木葉ヲ拾フ時期區畫及ヒ拾取方ヲ定メタル山林警察規則權利者之ヲ遵奉スヘシ
千八百五十六年三月十六日ノ大審院判決ニ因レハ(「ストリトホルスト」氏判決錄二十卷二百五十二帖)山林所有者ニ於テ木葉ヲ拾取ル時日ヲ定ムル權ハ權利者ニ於テ數年間一定ノ時日ナク木葉ヲ拾取リタルニ因テ消滅スル者ニ非スト千八百五十四年九月十四日ノ大審院判決ニ因レハ(判決錄二十八卷四百三十帖)第四條ノ④ニ於テ慣習ニ因リ運送器ヲ定ムヘシト掲ケタルハ古來使用權ヲ實行シタル方法ヲ云フナリ

ノイハウス氏行政諸規則實施上ノ説明下

營業規則原由

營業規則

第三篇 行商營業

第一 行商一般ニ關スル説明 坐商トハ行商ニ非サル都テノ營業ヲ云フナリ 行商ノ意義ハ營業規則第五十五條ニ定メリ 行商ハ兎角風俗又ハ公安秩序ヲ害シ易キ者ナレハ獨逸國ニ於テハ多少警察上ノ制限ヲ加ヘタリ然レモ營業規則ニ於テハ全ク其制限ヲ廢シタリ今日仍ホ存スル制限ハ左ニ掲クル目的ヲ有スル者ナリ

第一 無益ニシテ害ノアルヘキ者ヲ成ヘク除棄スルニアリ(第五十七條)

第二 行商營業ノ實驗ニ因レハ通常生活ノ爲メヨリハ無用ノ目的ヲ達センカ爲メナル營業ヲ除クニアリ(第五十六條)(古著「カルタ」此等ハ盜犯ノ助ケヲ爲セハナリ)

第三 行商ノ營業者ニハ鑑札ヲ所持スヘキ義務ヲ負擔セシムルニアリ其鑑札ハ衛生警察ノ爲メニ缺ク可カラサルモノハ勿論又坐商ヲシテ届出ヲ爲ス(第十四條)義務ノアルカ爲メ公衆ノ保護ト爲ルヘキ代リトナルモノナリ

第二 各別ノ説明 第五十五條ニ定メタル行商營業ノ意義ニ從ヘハ左ニ掲クル者ハ行商ノ内ニ含マス(イ)前以テ注文ヲ受ケタル上住所外ニ營業ヲ爲ス者(ロ)支店ヲ出ダシテ爲ス營業(ハ)旅行セシメテ商品ノ注文ヲ求ムルコト(第四十四條)(ニ)商業ヲ世話スルコト(ホ)

學問又ハ技術ニ關スル事業ヲ施シ又ハ之ヲ縱覽ニ供スルコト

第三 行商ノ營業ヲ爲スニハ鑑札ヲ所有スヘキ義務アリ(第五十五條)併ナカラ耕作山林花園菜圃ヨリ得タル生産物ヲ賣買スルニハ鑑札ヲ要セス

第四 何人ニシテ鑑札ヲ得ルコトヲ得ヘキヤ曰ク内國人ニシテ第五十七條ニ掲ケタル理由ノナキ者ニ交付スヘシ

第五 如何ナル商品及ヒ事業ニ鑑札ヲ交付スヘキ者ナルヤ曰ク(イ)第五十六條ニ禁セサル商品ニ交付スヘシ(ロ)第五十九條ノ第一項ニ掲ケタル事業ニハ縣内ニ既ニ多ク與ヘサリシトハ交付スルコトヲ得

第六 何人ヨリ鑑札ヲ交付スヘキヤ曰ク(イ)下等行政官(郡長郷二

於テハ地方警察官ヨリ交付スヘシ(一)獸獵漁獵ニテ獲タル物ヲ
 賣買スル爲メ(第五十八條第一)(二)小市場ニテ賣ルヘキ自分ニテ
 製シタル商品ノ爲メ(第六十六條)及ヒ其地方ノ慣習ニ從テ爲ス營
 業上ノ事業例ヘハ窓硝子ニ繕フ者刃物研烟筒掃除人ノ爲メ併ナカ
 ラ警察官ヨリ定メタル住所地方内ニ於テ爲スヘシ(通常ハ二里四
 方)(ロ)上等行政官則チ縣令(地方行政權限法第三百一十一條)ヨリ
 交付スヘシ但(イ)ニ掲ケサル營業ノ爲メ鑑札交付ノ願ハ住居地方
 ノ警察官ニ願出ツヘシ警察官ハ第五十七條ノ故障ノ有無ヲ檢査シ
 タル上ニテ之ヲ上官ニ送達スヘシ

第七 如何ナル地方及ヒ如何ナル時間其鑑札ノ效アル者ナルヤ(イ)

第六ノ(イ)ノ(ニ)(第六十二條)ニ掲ケサル營業ナレハ其住居地方

及ヒ其周圍(二里四方)(ロ)第五十九條第一ニ掲ケタル營業ナレハ
 其鑑札ヲ交付シタル官署ノ管轄内ニ其效アリ但其營業ヲ行フ非ハ
 前以テ警察官ノ許可ヲ受クヘシ(第六十條第一第五十九條第二(ハ))
 其他ノ營業ナレハ獨逸全國内ニ效アリ)如何ナル場合ニ於テモ其
 鑑札ハ曆表ノ一年間效アルモノナリ(第六十九條第一)

第八 鑑札所有人ハ營業ヲ爲ス非必ス之ヲ所持スヘシ(第六十一條)

第九 行商ノ營業ハ代理人ヲシテ行ハシムルコトヲ得ヌ(第六十二條)
 行商ノ營業ハ他人ヲシテ行ハシムルコトヲ得サルトハ行商營業ハ他
 人ノ計算ニテ爲スヲ得サルト云フ意ニ非ス

第十 鑑札ニ付テノ規則ハ行商營業者ノ稅ヲ納ムハキ義務及ヒ之カ
 爲メニ營業證書ヲ受クヘキ義務ヲ變スルモノニ非ス(千八百七十

六年七月三日ノ行商營業稅規則ヲ參看スヘシ

其稅ハ通常一年ニ四十八「マルク」トス然レモ或ル營業ニハ六「マルク」マテニ減スルコアリ又大ナル營業ノ爲メニハ百四十「マルク」ヲ課スルコアリ(千八百八十年二月二十七日ノ店舗ヲ轉遷シテ營業ヲ爲ス者ノ營業稅規則)

第十一 行商ノ營業鑑札ト第四十三條第四十四條トノ鑑札ヲ混スヘカラス

第十二 外國人ノ行商營業(千八百七十七年三月七日宰相ヨリ發シタル布達)

外國人ハ殆ント内國人同様ニ看做セリ但左ニ掲クル制限アリ(一) 交付シタル鑑札ハ獨逸全國ニ效アルモノニ非ス且其交付スル官署

ノ管轄内ニ既ニ多ク交付シタル片ハ之ヲ拒ムコトヲ得(布告第二號六號)(二) 輪カケ鑄カケ人ノ鑑札ハ止タ明カニ前年ニ同營業ノ爲メ已ニ受ケタル者ニ交付スヘシ

第四篇 市場賣買ノコト

第一 第四篇ノ規則ハ大市小市場ニテ賣買ヲ爲ス自由且連邦ノ人民ヲ同等ニ取扱フヘキコトヲ保護スルナリ此ノ如ク基礎ヲ定ムレハ必ス其規則ナカルヘカラス其規則ノ一ハ每週ノ市場ト年ノ市場トノ區分ヲ定メ一ハ市場ニテ賣買スル自由ヲ營業規則中他ノ事ニ關スル規則ト平均ヲ爲サシムルモノナリ

第二 營業規則ノミナラス他ノ規則ニ於テモ每週ノ市年ノ市(一名ハ(カラームマルク)ト云フ)及ヒ大市ノ意義ヲ定メス併ナカラ其

ノイハウス氏說明下

要領ニ付キ論スレハ左ノ區別アリ每週ノ市及ヒ年ノ市ハ手狭キ商
業ノ爲メナルモノニシテ就中每週ノ市ハ活計上ニ必要ナル日用品
ヲ賣買スル爲メナルモノトス則チ耕作牧畜花園菓實園ヨリ得タル
生産物ヲ賣買スルカ如シ

故ニ每週ノ市年ノ市場ハ製作者ト消費者間ニ直チニ賣買ヲ爲サシ
ムル媒ト爲ル者ナリ而シテ其市ハ郷邑及ヒ郷邑ニ次クヘキ村ニ於
テ一週ニ一度又ハ數度又ハ毎日時刻ヲ定メ(通常ハ午前ニ時刻ヲ
定ム)一定ノ場所(道路)ニ開クモノナリ

年ノ市ハ通常少クモ一日間(稀ニハ一日間開カサルトアリ)開クモ
ノニシテ耕作等ノ生産物ヲ賣買スルノ要旨ニアラス則チ製造物ヲ
賣買スルヲ目的トス然シテ其市ハ郷邑又ハ郷邑ニ次クヘキ地方ニ

開クモノナリ

大市ハ大ナル商業ノ爲メノモノナリ(例ヘハ「ライプチヒ」ノ市「フ
ランクホルト」ノ市ノ如シ)營業規則第七十條ニ因レハ其他左ニ掲
クル市場アリ

不時ノ市(例ヘハ射的祭新築寺院開業式等ニ開ク市)及ヒ物品ノ種
類ヲ定メテ開ク市(例ヘ家畜市就中盛大ナル市ハ「キヨ」ニフスベ
ルヒニ於ケル馬市ナリ又鳩市毛市麻切ノ市毛麻ノ市等ナリ)

營業規則第六十六條及ヒ第六十七條ニ於テハ市場ニ於テ賣買ヲ許
シタル物品ヲ掲載シテ每週ノ市ト年ノ市トヲ區別セリ

第三 (第六十四條)大市等ハ何人タリトモ行イテ賣買スルノ權アリ
則チ連邦人タルノミナラス外國人ト雖モ亦同ク其權アリ然シナカ

ノイハウス氏説明下

ヲ外國人ニ對シテハ第六十四條第三項ニ從ヒ外國ニ於テ本國人ニ
禁シタル外國人ニハ亦之ヲ禁スルコトヲ得

又市場地方ノ住民ノ特權ハ第六十四條ノ第二項ニ定メリ

第四 (第六十五條) 地方行政權限法第三百三十六條及ヒ第三百三十九條
ニ從ヘハ

(イ) 縣輔佐官ハ團結官署ノ承諾ヲ得タル上每週ノ市場ノ員數時刻
日數ヲ決定シ及ヒ從來ノ慣習ニ從テ内國人ノ手製シタル物件ヲ賣
買セシムルコト及ヒ地方ノ慣習ト需用ニ從テ營業規則第六十六條外
ノ如何ナル物品ヲ縣内一般又ハ其地方ヲ限り賣買セシムヘキヤヲ
決定スヘシ

(ロ) 州輔佐官ハ年ノ市場獸類ノ市場ノ員數時刻日數ヲ決定ス

「イロ」以上ノ決定ハ市場ヲ開クヘキ權アル者ヨリ價ヲ求ムヘキ場
合ニ於テハ通商卿ノ許可アルコトヲ要ス市場ヲ開クヘキ權アル者ト
ハ(市場ヲ廢スルカ爲メ價ヲ求ムル權アル者)市場ニ於テ賣買ヲ爲
ス者ヲ云フニ非ス市場ヲ開クヘキ權ヲ有スル者ヲ云フ則チ市場ヲ
開ク地ノ團結ヲ云フナリ

又市場ヲ開ク權ヲ有スル者アリ(例ヘハ千八百六年ヨリ千八百十
五年間ニ國主ノ權ヲ失ヒタル者ノ其邑郷ニ於テ市場開設ノ權ヲ有
スルカ如シ)然レモ普國ニ於テハ現今ハ全ク此ノ如キ者ナシ

第五 市場ニ於テ賣買スヘキ物件

第六十六條第二項ニ掲ケタル製作物ハ止タ此等ヲ製作シタル者ヨ
リ賣買スヘキコトヲ法律ニ定メス故ニ此等ノ物件ヲ買受ケテ又賣買

ノイハウス氏說明下

スルヲ得

千八百四十七年十二月二十六日ノ卿ノ布達(内務行政ニ關スル卿布達全書千八百七十八年出版二十五葉)

卿ノ布達ニ因レハ大ナル獸類ヲ除キタル生産物及ヒ田畠山林花園菓實園漁獵ヨリ間接ニ得タル製作物則チ毎週ノ市場ニテ賣買スヘキ物品ヲ確定セリ

然レモ此布達ノ制限ハ賣買上已ムコトヲ得サルヨリ實際ハ種々制限ヲ越エタルモノアリ

第六 第六十八條ノ爲メ普國ニ於テハ千八百七十二年四月二十六日市場貸付料ノ法律(普國法律全書五百十三葉)及ヒ千八百七十二年六月十日ニ以上ノ法律ヲ施行スル布達(内務行政布達全書百八十

五葉)ヲ發シタリ市場貸付料則チ大市小市ニ物品ヲ販賣スル爲メ公ケノ明地及ヒ道路ヲ使用スル爲メノ借受料ハ市ヲ開ク爲メニ其販賣者ヨリ使用スル地面ノ大小販賣ノ時間ニ從テ取立ツヘキモノニシテ多クモ一メートル立方ヲ一日間貸スニハ二十「フエニヒ」ヨリ多ク取立ツルコトヲ得ス(邑規則四十九條五)

第七 (第六十九條)市場賣買ノ順序ヲ定ムルニハ左ノ如ク爲スコトヲ以テ至當ナリトス市場ニテ賣買スヘキ物品ハ市ノ時間ハ他ノ場所ニ持チ行キ賣買スルコトヲ禁シ必ス市場内ニテ賣買セシメ且同種類ノ物品ハ場所ヲ定メテ賣ラシムヘシ(肉類ハ肉類ト同場所ニ花卉ハ花卉ト同場所ニ野菜ハ野菜ト同場所ニ於テ賣ラシムヘシ)但場所ヲ定メテ賣ラシムル者ハ買フ者ノ便利ヲ圖リタルモノナリ

ノイハッス氏説明下

第八 以前ハ第七十一條ニ廢シタルカ如キ制限多ク有リシ例ヘハ一
 タヒ市場へ持出シタル賣殘リノ物品ハ市場ヨリシテ再ヒ持出ス
 ヲ得ス必ス其所ニ於テ所有主自カラ之ヲ賣捌クカ又ハ内國ノ商人
 ニ依頼シテ其所ニ於テ賣捌カシムル等ノ制限アリタルカ如シ
 第五篇 公ケニ定メタル物品ノ價格表

第一 營業規則ノ物品ノ價格表トハ警察官ヨリ定メタル物品又ハ手
 業荷物案内者小刀如シ此物品ノ價格就中日用ニ供スル飲食物ノ價
 格ハ以前ハ種ヤノ定メアリタリ而シテ營業組合ノ專賣權及ヒ種ヤ
 ノ壓制權アル^ニハ勢之ヲ定メサルヲ得サリシナリ
 併ナカラ營業自由ノ今日ニ至テハ價格表ハ自カラ無用ニ屬スルモ
 ノナリ之ヲ廢シタルハ畢竟營業自由ヨリ來ル結果ナリ

第二 營業規則第七十二條ニ因レハ此規則ニ明カニ示サ、ルモノ、
 物價表ハ盡ク之ヲ廢止スヘシ

第三 營業規則ニ明カニ示シタル物價表ニ二種アリ

(イ)自カラ作りタル物價表ニシテ麵麩屋又ハ麥粉製ノ燒物ヲ販賣
モルトントダキセン
 スル人及ヒ旅店ニ用ユ(第七十三條ヨリ第七十五條マテ)

(ロ)警察官ノ作りタル物價表
ボリツアイリハキセン

一 路傍ニテ營業ヲ爲ス者(營業規則第三十七條)及ヒ旅店ニ於テ
 手業ヲ勤ムル者(第七十六條)

二 現ニ專賣ノ權ヲ有スル營業者(第七十七條第七十八條第八十
 條第一項)

三 醫師及ヒ營業規則第二十九條第一項ニ掲ケタル者(第八十條

第二項

第四 警察官ハ千八百八十年七月二十六日ノ行政編制法第七十九條及ヒ千八百五十年三月十一日ノ警察規則ニ因テ警察規則ヲ發シ麵麩屋及ヒ麵麩販賣人又ハ旅店ヲシテ自カラ物價表ヲ作り之ヲ揭示セシムヘシ

第五 麵麩屋及ヒ麵麩販賣人ノ物價表ト旅店ノ物價表トノ異ナル所ハ麵麩屋及ヒ其販賣人ノ物價表ハ警察官ヨリ定メタル時間(八日十四日ナリ)動カス可カラサレトモ旅店ノ物價表ハ何時ナリトモ自カラ隨意ニ之ヲ變スルヲ得

麵麩屋及ヒ其販賣人ノ物價表ハ實際其効甚タ少ナシト雖モ營業規則理由書ニ因レハ物價騰貴ノ際ニ人民ノ疑惑ヲ解ク爲メニ必用ナ

ルヲ掲ケリ

第六 第七十六條ニ掲ケタル營業者ノ物價表ハ古來ヨリノ物ニシテ其効力ハ言ハスシテ自カラ明カナル者トセリ

第七 現ニ專賣權ヲ有スル營業者(第七十七條第七十八條第八十條第一項)ニ物價表ヲ有セシムルハ當然ノコナリ

第八 以上第三ノ(イ)(ロ)ノ一二ニ掲ケタル物價表ハ物價ノ最高價ヲ定メタルモノナリ故ニ營業者ハ隨意ニ其價ヲ減スルヲ得(第七十九條第八十條第一項)

第九 醫師ノ謝儀表(第八十條第二項)ハ豫メ契約ナクシテ争訟ノ起リタルキニ用フルモノナリ

普國ニ於テハ豫メ契約ナキ用フヘキ謝儀料ハ千八百十五年六月

ノイハッス氏説明下

二十一日ノ醫師謝儀料規則ニ從フヘシ(普國法律全書百九葉)

醫官ノ裁判所及ヒ衛生警察ニ關スル事務ヲ爲シタル片給スヘキ謝

儀ハ千八百七十二年三月九日ノ法律(普國法律全書二百六十五葉)

及ヒ千八百七十四年十一月四日ノ布告ニ從フヘシ

第六篇 營業者組合

營業者組合トハ(古ハ「ゲゼルシャフト」ト云ヘリ)獨立シタル營業者(同

營業又ハ類似ノ營業ヲ爲ス者)ノ組合ニシテ法律上人ト看做スヘ

キ者ノ權利ヲ有スル者ヲ云フナリ其組合ノ目的ハ營業者組合ノ一

般ノ利益ヲ圖ル爲メナリ就中丁稚手傳人ノ抱入レ方及ヒ之ヲ教育

シ又ハ其行狀ヲ監督シ組合中ノ疾病用意貯蓄所死後用意貯蓄所救

助貯蓄所貯金預リ所ヲ管理シ又ハ組合中ノ寡婦孤兒ヲ救助シ及ヒ

孤兒ヲ教育シテ獨立セシムル爲メナリ

古來組合ニテ有スル專賣權ハ普國ニ於テハ已ニ久シク之ヲ廢止シ

タル他ノ連邦ニ於テハ千八百六十九年六月二十一日ノ營業規則

ヲ發スルマテ成立テリ

第一 營業規則ヲ設クル前ヨリ成立タル營業者組合

營業規則第四條ニ因レハ組合ノ專賣權ハ全ク廢止スヘキ者ナリ已

ニ成立タル營業者ノ組合ハ如何爲スヘキカ或曰ク營業者組合ナル

モノハ全ク公ケノ利害ニ關涉セサル私ノ組合ニシテ其財産ハ社中

ニ屬スルモノトス故ニ其組合ヲ解キタル片ハ其財産ハ自カラ社員

ニ配當スヘキ者トセリ

或曰營業者組合ハ社員ノ強力ニ因テ公ケノ利益ヲ進歩シ其財産ハ

ノイハウス氏説明下

義務ニ因テ合集シタル者ナレハ公ケノ性質ヲ有シ社中ノ私ノ財産ニ非ス則チ組合ノ財産ニ屬スル者ナリ

然ルニ第二ノ說ニ到底結著セリ則第六篇ノ規則ハ其趣意ニ因テ定メタルモノナリ

第八十一條ニ因レハ組合規則ノ營業規則ニ抵觸スル者ハ都テ之ヲ變更スヘシ

組合ニ入ルト入ラサルトノ自由ハ第四條ニ於テ之ヲ礎メリ又組合ヲ離ルノ自由ハ第八十二條ニ之ヲ定メリ

第八十三條ヨリ第八十六條マテノ規則ハ營業者組合ハ自カラ專賣權ヲ失フヘシ(再ヒ其權ヲ得ルコトヲ得ス)何トナレハ組合ニ入ルコトノ要件ハ甚タ容易ニシテ且組合ニ入レサル理由ハ已ムコトヲ得サル

者ニ限レハナリ

又已ニ組合ニ入リタル者ヲ出スノ權ナシ止タ投票及ヒ名譽ト爲ルヘキコトヲ爲サシメサルコトヲ得ルノミ(第八十六條)

第八十八條ハ組合ノ代理ヲ定メリ

第九十條ヨリ第九十四條マテ就中第九十四條ハ組合ニ屬スル財産ハ公ケノ利益ニ供ス可キ爲メノ目的ヨリ成立タルモノナリ

第九十四條ノ規則ヲ避ケサラシムルニハ組合ニ於テ爲シタル財産處分ノ決議ヲ監督官ヨリ許可ヲ受ケシムヘシ(第八十九條第九十二條第九十三條第九十四條)其他組合ノ事務ヲ管理シ且其規則ヲ變更スルコトハ組合ノ隨意ニ任スヘシ

監督官トハ團結ノ官署ヲ云フ(第九十五條)監督官ノ決定ニ對シテ

ハ地方行政權限法第三百三十七條ノ場合ナレハ縣行政裁判所ニ訴フルコトヲ得同第三百三十六條第三ノ場合ナレハ縣輔佐官ニ故障申立ヲ爲スコトヲ得

第九十四條第三項ノ規則ハ連邦ノ法律ニ從テ組合ノ財産ヲ私有財産ト定メタル所ニ於テハ組合ヲ解キタルキト雖モ必ス連邦ノ法律ニ從テ處分スヘキノ趣意ナリ

第二 新タニ設クル營業者組合已ニ設ケタル營業者組合ヲ保存スルニ必用ナル要件ハ新タニ設クル組合ニモ適用スヘシ

第九十七條ヨリ第一百四條マテノ趣意ハ其要件ヲ定メタルモノナリ
第九十七條ハ草案ニ因レハ同地方ニ於テ同營業云々ト掲ケリ然レモ同地方ノ文字ハ下院ニ於テ之ヲ删除セラレタリ

第七篇 職工ノコト

營業規則第七篇ハ全ク之ヲ廢シ千八百七十八年七月十七日ノ法律ヲ以テ之ニ換ヘタリ此法律ヲ以テ變セラレタル第七篇ニ付テハ千八百七十八年十月二十四日ニ通商卿ヨリ布達ヲ發セリ其布達ハ製造場ノ男女職人又ハ幼年ノ職人ノ手業及ヒ履歷書ニ關スル營業規則ノ箇條ヲ實際施行ノ爲メ發シタルモノナリ（内務行政布達全書二百五十二葉）

一般ノ説明

○第一 第七篇ハ舊第七篇トハ全ク異ナリ舊規則ハ獨立スル營業者則自己ノ計算ヲ以テ營業ヲ爲ス者ニ付テ定メタルモノナリ新規則ハ獨立セサル營業者即チ營業者ニ付キ營業者ノ計算ヲ以テ修業ヲ

爲ス者ニ付テ定メタルモノナリ

○第二 此七篇ハ第四章ニ分レリ

第一章ハ職工ニ關スル規則ヲ定メ第二章ハ手傳人ニ關スル規則ヲ定メ第三章ハ丁稚ニ關スル規則ヲ定メ第四章ハ製造場ノ職人ニ關スル規則ヲ定メタルナリ

○第三 營業規則ハ當時ノ編成ニ於テハ職工手傳人丁稚製造場職人

ノ意義ニ付キ一定ノ定メナシ

舊營業規則ノ第百十五條ハ止タ丁稚ノ意義ヲ左ノ如ク定メリ

丁稚トハ營業者ニ就テ營業ヲ學フ者ヲ云フ之ヲ學フニ付キ授業料ヲ出スト出サ、ルト又ハ賃錢ヲ受クルト受ケサルトニ關係セストアリ」
千八百七十八年七月十七日ノ法律ノ理由書(獨逸帝國法律全書百

九十九葉)ニハ左ノ如ク掲ケリ

營業規則第百十五條ニ掲ケタルカ如ク丁稚ノ意義ヲ定ムルコトハ法律ニ於テハ之ヲ爲サ、ルコト決セリ

營業規則ニ於テ其意義ヲ定ムルモ到底十分ナルコト能ハス何トナレハ其意義ハ現今ノ形勢ニ從ヘハ其事柄ハ數多ニシテ完備スルコト能ハサレハナリ

又其意義ヲ定ムルコトハ甚タ難キノミナラス之ヲ定ムルキハ營業者又ハ丁稚又ハ其兩人ノ自己ノ利益ノミヲ圖リ營業者丁稚ノ間ノ關係ヲ定メタル規則ヲ遵奉セサルニ至リ却テ法律ヲ避クルノ策ヲ與フルノ弊ヲ生セン

何トナレハ行政官裁判官ハ其場ニ臨ミ營業者ト丁稚トノ關係アル

ナキニ付キ之ヲ定ムルヲ難キニ非サレハナリ

手傳人ト製造場職人トノ意義ハ舊規則ニモ其定メナシ然ルニ實際

ニ於テハ其意義ヲ定ムルヲノ難キヲハ丁稚ノ意義ヲ定ムルノ難キ

カ如クアリシナリ

又營業規則ニ於テハ製造場ノ意義ヲ定メス

特別ノ説明

○第四 (イ)營業中互ニ異なる者アリ則「インヅストリー」ト「ハンデル」トナリ

「インヅストリー」ハ生産物ヲ作り(耕作山林培植礦業)且生産物ニ

製作ヲ加フル業ヲ云フ「ハンデル」ハ製作者ト消費者トノ間ニ物件

ノ轉移ヲ媒介スル業ヲ云フ(物件ヲ配當スルヲ云フ)

耕作山林培植礦業ハ營業規則ニ於テハ之ヲ營業ト看做サス

(ロ)「インヅストリー」ノ内ニ異なるモノアリ手細工ト製造トアリ

手細工ト製造トハ實際相混同シタルモノニシテ殆ト區分爲シ難キ

モノナリ

大体ニ就テ論スレハ此二業ノ相等シキ所ハ生産物ト半製作物ヲ精

製スル「則」ベアルバイツングト「ヘルアルバイツング」トナリ(原質

ハルト者原質ノ見ハレサル
靴ノ如シ者サボンノ如シ)「二」アリ

相異なる所ハ手細工ハ直チニ各消費人ノ爲メニ製作シ製造ハ商業

ノ爲メニ製作シ又手細工ノ製作ハ(各消費人ノ好ミニ應スル爲メ)

各品ノ精巧ナルヲ主トシ製造ノ製作ハ物種ノ精巧ナルヲ主トシ又

製造ハ手細工ニ比スレハ其業ヲ分ツコ廣シ故ニ手細工ハ製造ニ比

スレハ其職人ノ廣ク其業ニ達スヘキニアリ一人ニテ何かマテ
爲スカ故ナリ製造ナレ
ハ數人ニ分テ爲
スヘキモノナリ

茲ニ注目スヘキハ製造ノ業漸々手細工ニ侵入シ手細工ニ於テモ其
業ヲ分ツコニ爲レリ又手細工ノ或部分ハ製造ノ爲メニ消滅シ手細
工ハ止タ製造シタル各部ヲ組立ルコニ至レリ(例ヘハ時計師ハ一
時計ノ各部ヲ製セス止タ製造場ヨリ受ケタル各部ヲ組立ルカ如シ
又「ブレッキ師ハ「ブレッキ」ノヒヲ作ラス金細工師ハ銀ノヒヲ作ラ
サルカ如シ)古ヘハ一人ニテ作リタル昨今ハ業
ヲ分ツコノ甚シキ故別々ニナレリ
(ハ)「ハウスインヅストリ」トハ如何ナル業ヲ云フカ「ハウスイ
ンヅストリ」トハ製造下手細工トハ異ナリタルモノニシテ獨立ス
ルカ又ハ獨立セサル營業ヲ云フ其營業場ハ自カラ營業者ノ住居タ

ルヘシ

「ハウスインヅストリ」ノ業ハ或ハ地方ノ慣習ニ因リ或ハ其時ニ
因テ異ナレリ例ヘハ織物木細工女ノ襟飾硝子研硝子畫ノ類

○第五 營業規則ノ職工トハ如何ナル者ヲ云フカ職工トハ其營業ニ
屬スル修業ヲ爲サンカ爲メニ營業者ニ付キ働キヲ爲ス男女ノ職人
ヲ云フナリ

千八百七十八年十月二十四日ノ履歴書等ノ規則ヲ實際ニ施ス爲メ
ノ布達第一ニ從ヘハ職人カ明カニ手傳人丁稚製造所職人トシテ抱
入レラル、トモ又ハ現ニ此等ノ者ト看做シテ働カシメラル、トモ
又ハ手細工人或ハ大ナル營業者ヨリ抱入レラル、トモ又ハ住居職
業場製造場室外就中普請場ニ於テ働キヲ爲ストモ之ニ關係ナシ

ノイハウス氏説明下

「ヒユツテンウエルゲシ」トハ礦物ヲ分析スル所ヲ云フ「パウヒヨ―ヘシ」トハ建築用ノ材木ヲ下タ造リスル所ヲ云フ「エルフテン」トハ造船場ヲ云フ是等ノ職人ハ職工ト看做スヘシ職工ト看做スヘカラサル者ハ左ノ如シ(布達第三)

一 幼年者ノ兩親ニ從ヒ兩親ノ爲メニ契約ナクシテ勞力ヲ爲ス者

二 僕婢

三 通常ノ日雇人及手働人此等ノ者ハ其職業外ノ働キヲ爲シタル

トニテモ

四 製造場ノ事務ヲ取扱フ者(製造場ノ監督役帳簿ノ記録役)又千八百四十九年二月九日ノ營業裁判ニ關スル布告ニ從テモ製造場ノ監督役等ハ職工ト看做サス

○第六 營業規則第七篇第二章ノ「ゲセルレ」及ヒ「ゲヒユルヘ」トハ如何ナル者ヲ云フカ(手傳人ノ)以前ハ「ゲセルレ」ノ字義ハ確定セリ則「ゲセルレ」ハ規則ニ從ヒ丁稚トナリテ一定ノ營業ヲ習ヒ(ゲセルレ)ノ試験ニ及第シタル後丁稚ノ關係ヲ免カル者)タル上丁稚ノ關係ヲ放レタル者ヲ云ヒシナリ

今日ニテハ其試験ヲ廢シ且傳授ノ義務ヲ解キタリト雖モ余ノ意見ニ於テハ「ゲセルレ」ノ語ハ仍ホ其意義ノ存スル者トス
余ノ意見ニ因レハ「ゲセルレ」トハ營業人組合ニ於テ丁稚ノ修業ヲ爲シタル後「ゲセルレ」試験ヲ經「ゲセルレ」ノ名ヲ得タル者ヲ云フナリ「ゲヒユルヘ」ハ組合ノ試験ヲ經スシテ爲リタル者ナリ是レ其違ヒアル所ナリ

「ヤーニヒ」氏ハ余ノ説ニ反對シタル説アリ其人ノ論ニ因レハ「ゲセルレ」トハ特立セサル職人ニシテ丁稚トモ製造場ノ職人トモ看做ス可カラサル者ヲ云フナリトセリ

「ゲセルレ」ト「ゲヒユル」ハ營業規則ニ於テハ全ク同等ノ者ト看做セリ兩ナカラ未タ特立セサル營業者ニシテ其營業ヲ爲シ且其業ニ關スル學識ト伎倆ヲ備ヘタル者ナリ

以上ノ如ク此二ツノ者ヲ同等ニ看做スコトハ亦連邦貧窮民掛ニ於テ千八百七十年六月六日ノ貧窮民救助管轄規則第二十九條ヲ解釋シタル（「ゲセルレ」「ゲヒユル」ノ字義ト符合セリ

然レモ「ゲセルレ」「ゲヒユル」ニシテ營業規則ノ製造場職人タルコトヲ得ルハ第三百三十四條ニ明ニ揭示セリ

○第七 營業規則第七篇第三章ノ丁稚トハ如何ナル者ヲ云フカ

丁稚ノ意義ヲ定ムルコト能ハサルコトハ已ニ第三ニ明カニ説明シタリ然レモ丁稚ハ營業ヲ學フ者ニシテ獨立スル營業者カ又ハ獨立セヌ營業者ヨリ一定ノ營業ニ必要ナル學識伎倆ヲ教フル爲メニ抱ヘ入レラル、者ナリト云フモ大ナル間違ハナカラシ「ゲセルレ」ト「ゲヒユル」ハ學識伎倆ヲ備フレモ丁稚ハ之ヲ學フヘキモノナリ
丁稚ノ製造場職人ト爲ルコトヲ得ルハ營業規則第三百三十四條ニ掲ケ

千八百七十八年六月十七日ノ法律理由書ニ左ノ如ク云ヘリ

元來丁稚ノ意義ヲ定メサルコトニ決シタレハ又草案ニハ手細工人ノ丁稚ト製造場ノ丁稚トノ關係ヲモ定メス全ク是等ノ區別ヲ爲サ、

ルヲ可トセリ只タ製造場所有主ト其丁稚ハ此篇ノ規則(營業規則第七篇第三章)ニ從フヘシ又丁稚ハ製造場ニ於テ教育ヲ受ケサル可ラサル今日ノ時勢ナレハ國內ノ營業ヲ進歩セシムルカ爲メ丁稚ヲ教育スル規則ヲ製造場ニ於テモ適用スルヲ必用ナリトス

若シ教育ヲ爲サ、ルハ生涯製造場職人ニ止ルヲ欲セサル弱年輩ヲ濫勞シ且之カ爲メ營業進歩ヲ妨クルノ弊ハ甚々大ニシテ終ニハ法律ヲ以テ「インヅストリー」ヲシテ營業者ノ教育ニ付キ十分責任ヲ負ハシムルヲ能ハサルニ至ルヘシ若シ製造人ヲシテ手細工人ニ負ハシムル義務ヲ免カレシムルモノトセハ甚々穩當ナラス何トナレハ製造場ハ弱年輩ヲ抱入レテ教育スルノ趣意ナレハナリ

○第八 營業規則第七篇第四章ノ製造場職人トハ如何ナル者ヲ云フ

カハ(第三百二十四條ヨリ第三百二十九條(ロ)マテ)余ノ意見ニ因レハ製造場又ハ蒸氣力ヲ用フル職業場又ハ礦物分析所建築木材下造所造船場礦坑鹽礦礦物淘汰所石礦(第五百五十四條二項三項)ニ於テ勞カヲ爲ス者ヲ云フナリ

千八百四十九年二月九日ノ營業裁判所ヲ設ル布告第二條ニ從ヘハ(普國法律全書百十葉)製造場ノ職人トハ職業場ノ内ニテ働ク者ノミナラス其外ニ於テ働ク者ヲモ云フナリ而シテ其職人ハ自分ノ器械又ハ他人ノ器械ヲ用ヒ製造場所有者監督者等ヨリ與ヘラレタル生産物及ヒ半製作物ヲ以テ物品ヲ造リ其賃錢ヲ得ル者ヲ云フナリ

營業規則第七篇第四章ノ製造場職人ハ千八百四十九年二月九日ノ

布告トハ異ナリ止タ製造場内ニテ勞役ヲ爲ス者ノミヲ云ヘルモノト思考ス何トナレハ其規則ニハ製造場内及ヒ第百五十四條ノ二項三項ノ職業場内ニテ其勞力ヲ爲ス者ニ使用スヘシト掲クレハナリ」營業規則第百五十四條二項三項ニ掲ケタル職業場ト製造場ト同等ニ看做スヘキ理由ハ千八百七十八年七月十七日ノ法律理由書ニ左ノ如ク云ヘリ

第百五十四條二項三項ニ於テハ製造場内ノ幼年職人ノ勞力ニ關スル規則ノ區域ヲ定ムルコトヲ試ミタリ
又製造場ノ意義ハ營業規則ニ掲クル如ク之ヲ定メサルコトニ決シタルモノハ製造場ノ數ハ多クアレハ實際ニ於テハ之ヲ區分スルコト難キニ非サレハナリ

併ナカラ文字上ニ因レハ其内ニハ通常謂フ所ノ製造場ニ非サルモノ多クアリ然レハ其性質ニ因テ看ルモ職人ニ損害ヲ生セシメ易キコトニ因テ看ルモ通常謂フ所ノ製造場ト殆ト相似タリ是レ則チ職業場ト云フヘキモノナリ一體職業場ハ器械ノ力ヲ以テ働ヲ爲サシムルモノナリ追々其數ノ増加シテ勞力ヲ分配スルコト爲リタルカ爲メニ職人ハ營業上一般ノ伎倆ヲ得ルコト能ハサルニ至レリ此職業ノ區別ノ著シキ所ハ運轉力ナリ(第百五十四條二項)其運轉力ハ現ニ見ユルモノニシテ且其有無ヲ知ルコトハ甚タ容易ナリ若シ職人ノ數ヲ以テ區別ヲナセハ職人ノ數ニハ時々變リアリ之ヲ定ムルニ難ケレハナリ

礦物分析所ヲ製造場ト同一ニ看做スヘキコトハ舊來ヨリ疑ヒノ生セ

シコナシ然レモ通常ノ語ニ於テハ製造場ト言ハサルヲ以テ明カニ製造場ト同一ナリト示スヲ善トス

建築用材木下造所ヲ製造場ト同一ニ看做スヘキコハ佛蘭西ノ法律ヨリ由來シタルモノナリ

又造船場ヲ掲ケタルモノハ其事業ニ因テ當然之ヲ掲クヘキモノナリ

○第九 以上説明シタルコニ因テ看レハ營業規則第七篇ノ職工ノ意義ハ「ゲセルレ」「ゲヒユルレ」「丁稚」「製造場職人」(第七篇第二章ヨリ第四章マテ)ノ意義ノミニテハ十分定メタルモノトセス
是等ノ者ハ止タ職工ノ一部ニシテ職工ニ關スル一般ノ規則ノ外ニ格別ノ規則ヲ要スルカ爲メニ斯ク意義ヲ定メタルモノナリ

○第十 第一百五條ノ第二項ニ從ヘハ職人ヨリハ日曜日ノ休業ヲ求ムルコヲ得營業者ヨリハ左ニ掲クル場合ニ於テハ職人ニ休業ヲ與ヘサルコヲ得則營業ノ種類ニ因ルカ地方ニ因ルカ又ハ其地ノ慣習ニ因テ已ムヲ得ス休業ノ日ニ其業ヲ休メシムルコヲ得ス若シ休メシムルモハ營業上ニ損害ヲ致スヘキ場合ヲ云フ(例ヘハ麵麩屋ノ如キハ舊法ニ於テハ日曜日ト雖モ職人ヲ休シメサルヲ得ス舊法ニ於テハ其休メシメサルコヲ得ルノ法ナシ故ニ麵麩買求人ハ差支アリ然ルヲ新法ニテ此權ヲ營業者ニ與ヘタルタリ)

第一百五條第一項ニ從ヘハ職人傭入ノ契約ノ事柄ハ連邦ノ法律ヲ以テ制限スルコ能ハス然レモ其契約ノ効力ノ有無ヲ定ムル要件則契約者ノ契約ヲ結フコヲ得ル能力及ヒ法式ハ此限ニ在ラス

○第十一 第百六條ハ唯タ營業人ト丁稚トノ關係ヲ定メタルモノニ

ノイハツス氏説明下

非ス都テ十八歳未滿ノ者ニシテ他人ノ營業ニ就ク者ノ關係ヲ定メタルナリ(則チ公權剝奪セラル、者ハ使用スルコトヲ得サルナリ)公權剝奪ニ付テハ獨逸刑法第三十二條ヨリ第三十四條マテ比較スヘシ

○第十二 第七條ヨリ第十四條マテ(二十一歳未滿ノ者ハ必ス履歷書ヲ有スル者ニ非サレハ使フコトヲ得サル云々)

(イ)二十一歳未滿ノ職人ハ盡ク履歷書ヲ有スヘシ(第七條但法律ヲ以テ別ニ定メタルハ此限ニ在ラス)

(ロ)履歷書ハ左ノ場合ニ交付スヘシ
一 職人ノ小學校ニ出ルノ義務ヲ免カレタルコトヲ證スルキ(第八條)

二 是迄履歷書ヲ有セサルコトヲ證スルキ若シ第二ノ證ヲ立ルコト能ハサルハ其職人ハ他人ト契約期限内ノ者ニシテ其履歷書ハ他人ノ手ニ在ル者ト看做ス可シ故ニ更ニ履歷書ヲ交付スルコトヲ拒ムコトヲ得

(ハ)第八條ノ小學校トハ(千八百七十八年六月十七日ノ法律ノ理由書ヲ比較スヘシ)通常ノ小學校ノミヲ言フ者ニシテ夜學又ハ日曜日祭日等ニ教フル學校ヲ云フニ非ス是等ノ學校ハ連邦ノ法律ニ從ヘハ通常ノ小學校ヲ卒業シタル後ニ弱年ノ者ノ是等ニ出テ、學フヘキ所ナリ

(ニ)小學校ニ出ツヘキ義務ニ付テハ普國法律全書ノ第二篇第十二章ノ第四十三條ヨリ第四十六條マテニ定メタリ

第四十三條 家内ニ於テ子供ノ教育ニ注意セサル者ハ其子供ハ滿五歳ニ至レハ小學校ニ出スヘシ(卿ノ布達(此規則發行一年前ニ發シタル布達)ニ因リ學校マテ十五分時間ヨリ以上隔タ、リタル村ニ於テハ滿六歳「ウエストハーレン」州ノ村ニ於テハ滿七歳ニ至テ學校ニ出スヘキ義務ヲ定メタリ)

第四十六條 其教育ハ僧侶ノ見込ニ從テ其身分相當ニ必用ナル丈ケノ學問ヲ爲スマテハ之ヲ受ケシムヘシ
此兩規則ハ千八百二十五年四月十四日ノ布告ニ因リ(法律全書百四十九葉)普國ノ法律全書ノ行ハレザル諸州マテモ廣メタリ
僧侶ノ代リニ學校監督官ニ於テ其身分相當ノ教育ヲ受ケタルヤ否ヤヲ鑑定スヘキヤノ争ヒハ諸説未タ一定セス

(ホ)履歷書ハ如何ナル目的ヲ有スル者ナルカ履歷書ニハ之ヲ所持スル者ノ氏名等(第一百條)ヲ記載シ且各營業者ニ付テ職業ヲ爲スヘキ地方時日種類(第一百一條)ヲ記載スヘキ者ナレハ從來已ニ爲シタル業ヲ證スル者ト成リ又後來行狀ヲ正シクシ且其職ヲ勵マシムルモノトス又履歷書ハ抱入レラル、其營業者ニ差出シ其營業者ニ付キシ間ハ營業者ニテ之ヲ保存シ其營業者ヲ故障ナクシテ辭スル時ハ再ヒ職人ニ還付スヘキモノナレハ(第七條)容易ニ職人ノ契約ヲ破ルコナキヤウニ防クモノナリ
(ハ)營業者ハ職人タルモノニハ必ス履歷書ヲ所持セシメ且職人ノ行狀ヲ履歷書ニ記入センコトヲ希望シ又職人ハ履歷書ヲ所持セサルコトヲ希望セリ然レモ法律ハ止タ未丁年ノ職人(二十一歳ニ至レハ

多クハ兵役ニ加ハレハ自然行狀ヲ正シクスルコトニ爲レルコトヲ見込ミタルモノナリ)ニ限り履歷書ヲ所持セシムルコトニ定メタリ而シテ其履歷書ハ第一百十條及ヒ第一百一條一項ニ定メタルカ如ク至極簡畧ニ爲シ其内ニ行狀及ヒ伎倆ヲ記スルコトヲ禁シタリ(第一百一十條ノ二項三項)是レ畢竟職人就中社會黨(自由營業ヲ主張スル者)ヨリ履歷書ニ不同意ナルニ因リ以上ノ制限ヲ以テ履歷書ヲ所持セシメサレハ實際行ハレサルト云フコトヲ見込ミタルユヘナリ

(ト)然レモ職人カ營業者ヲ辭スルハ其爲シタル業ノ種類及ヒ時間ノ證書(履歷書ニハ止タ業ニ就クハ及ヒ業ヲ離ル、ハニ其業ノ種類ヲ記スルノミ)且其行狀證書(伎倆ハ此限ニ在ラス)ヲ受クルノ方法ナカル可カラス故ニ第一百十三條ニ於テ其方法ヲ定メタルナリ

丁稚ノ教育ヲ受ケタル後其營業者ヨリ交付スヘキ技量等ノ證書ニ付テハ第二百二十九條ヲ參看スヘシ)

第十三 第七條ニ從ヘハ二十一歳未満ノ者ハ止タ履歷書ヲ有スル者ノミヲ職工トシテ使用スルコトヲ得

第八條ニ從ヘハ其履歷書ハ職人ノ小學校ニ出ル義務ヲ免カレタルコトヲ證シタルハニ限り交付スルモノトアリ 第三十五條ニ從ヘハ十二歳未満ノ幼年者ハ製造場ニ使用スルコトヲ許サストアリ 第三十七條從ヘハ製造ニ使用スル幼年者則チ十二歳ヨリ十四歳マテノ幼年職人ハ履歷書履歷書ノ代リニ履歷端紙履歷端紙所持スヘシトアリ 第五十四條二項三項ニ從ヘハ其勞力場ニ使役スル子供ニ付テハ製造場同等ト看做ストアリ

營業規則ニハ學校ニ出ル義務ヲ免カレサル子供ヲ職工ト爲スヘキ簡條ナシ前文ヨリシテ推究スレハ學校ニ出ツヘキ義務アリ子供ハ唯々製造場及ヒ第百五十四條二項三項ニ於テ製造場ト同様ニ看做スヘキ勞力場ニ使役スルキニ限り職工ト看做スヘキナリ(丁稚ト看做ス可カラサルキニ限ル第百三十四條)然レモ其他ニ働キヲ爲ス者ハ一切就中手細工及ヒ「ハウスインヅストリ」ニ働ク者ハ職工トス可カラス

千八百七十八年七月十一日ノ法律理由書ニ以上ニ掲ケタル事ニ付キ左ノ如ク云ヘリ

草案ニ從ヘハ未タ學校ニ出ツヘキ義務ヲ免カレサル子供ハ手細工及ヒ「ハウスインヅストリ」ニ入ルコトヲ得ス何トナレハ子供教育

中一定ノ營業上ノ勞力ヲ爲サシムルコトハ假令政府ノ教育上ニ害ナシト假定スルモ(則丁稚ハ一定ノ勞力ヲ爲サル可ラサルカ如キモノナリ)勞力場等ニ於テ勞力ノミヲ爲サシメタルキハ其精神上ノ教育ヲ妨ケ後來獨立シテ營業ヲ爲スニ大ナル害アルヘシ就中手細工人ハ當時ノ有様ニ於テハ殊ニ學校ノ教育ヲ受ケシムヘキコト肝要ナリ「ハウスインヅストリ」ニ於テハ夫程ニ教育ヲ受ケシムルコト肝要ナラスト雖モ子供ニ爲サシムル仕事ノ健康上ニ害アリ且「ハウスインヅストリ」(家内ニテ爲スモノナレハ監督スルコト難シ)ハ學校ノ義務ヲ免カレサル子供ノ勞力時間ヲ監督スルコト困難ナレハナリ

製造場ニ働ク幼年ノ者ニシテ其働キノ仕方ニ因リ丁稚ト看做ス可

カラサル者ニ在テハ全ク以上ト反對スヘシ則チ時刻ヲ定メテ勞力セシムレハ健康ニ害ナク監督モ格別困難ナルモノニ非ス故ニ草案ハ之レカ爲メニ數條ヲ設ケ(第百二十五條以下)學校ニ出ル者ト雖モ時間ヲ定メテ勞力ヲ爲サシメ且監督ノ上履歷書ヲ有セスシテ製造場ニ働カシムルコトヲ得ルナリ

第十四 第百十五條ヨリ第百十九條マテハ職人ニ製造物ヲ以テ其賃錢ヲ拂フコトニ關スル法ナリ其内一部ハ職人ノ害一部ハ利益トナルモノナリ(衣服ヲ與フルコトハナラヌト云フハ職人ノ爲メニ害トナリ食物住居炭薪ハ賃錢ノ代リニ與フルコトヲ得ルトアリ是レハ職人ノ利益トナルナリ)

第十五 第百二十條ハ幼年ノ職人ノ教育行狀ノ爲メ並ニ健康ノ爲メ營業者ヨリ爲スヘキ事柄ヲ集メタルモノナリ(千八百七十一年六月七日ノ營業者責任規則)(ハフトフリヒト規則)(獨逸國法律全書二百七葉)

又草按ニ云フ所ノ營業ヲ廣ムル學校(第百二十條二項)トハ一定ノ營業ニ關スル技藝ヲ教フル所ニ非ス已ニ小學校ニテ學ヒタル學識ヲ實地ニ照シ廣ムル爲ノ學校ヲ云フナリ

第十六 (第百二十條)ノ(イ)普魯西國ニ於テハ千八百四十九年二月九日ニ營業裁判所ヲ設クルコトニ付キ布告ヲ發シタリ(法律全書百十葉)此布告ハ普國憲法ノ第百五條ニ從テ已ムヲ得ス發シタルモノナリ(千八百五十年一月二十日ノ内閣布達ヲ參觀スヘシ)(法律全書十六葉)則チ布告ニ因テ數箇ノ營業裁判所ヲ設ケタレモ余ノ

ノイハツス氏説明下

此法律ノ理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ

從來ノ實驗ニ因レハ營業者ハ丁稚ニ對シテ其義務ヲ盡スコトヲ怠ル
コノ屢々之アルニ因リ法律ニ明カニ其義務ヲ示スヲ可トス

又第二百二十六條ニ掲ケタル義務ノ外ニ第一篇ヨリ第七篇マテ就中
第二百十條ニ定メタル義務ヲ盡スヘキコトハ無論ナリ

(ハ)(第二百二十七條)親ヨリ子ニ對スル教戒權ハ普國法律全書第二
篇第二章第八十六條ニ從ヘハ子ヲ教育スル爲メ健康ヲ害セサル脅
迫方則チ撻チヲ爲スコトヲ得ルヲ云フナリ

此法律ノ理由書ニ左ノ如ク云ヘリ

親ノ子ニ對スル教戒權ハ自カラ丁稚ノ年齢ニ從テ異ナルコトハ無論
ナリ營業者ノ年ノ多キ丁稚ニ對シ年ノ少ナキ丁稚ニ用フル教戒權

ヲ行フキハ之ヲ濫用スルト云フヘシ

丁稚ハ家法及ヒ勞力場ノ規則及ヒ之ニ關スル命令(職人ノ)ニ從フ
ノミナラス營業者ノ代リニ勞力場ヲ指揮スル「ゲセルレ」「ゲヒルヘ」
ノ命令ニモ從フヘキコトハ勿論ナレハ明カニ法律ニ之ヲ掲ケス

(ニ)第二百二十八條第一項ニ於テハ四週間ノ試ミ時間ヲ定メタルナ
リ(之ヨリ長キ時間ヲ契約ヲ以テ定メタルキハ格別ナリ)其時間ニ
ハ一方ヨリ申出テ解約ヲ爲スコトヲ得法律理由書ニハ左ノ如ク云ヘ

試ミ時間ヲ定ムルコトハ至當ノコトナリ何トナレハ丁稚ノ關係ハ解ク
コトヲ得サルモノナレハ始メニ時間ヲ限リ其間ニ一方ニテ契約ヲ保
ツコト能ハサルコトヲ知りタルキハ之ヲ止ムコトヲ得ヘキ便利ヲ與ヘ

サルヲ得サレハナリ

(ホ) 第二百二十八條末項ニハ營業者ノ死シタルニ因リ其教業契約ヲ解クコトハ素ヨリ相方ヨリ豫シメ慮ハカラサルコト屢々實際ニ之アルカ爲メニ其注意ヲ爲シタルナリ

其契約ハ營業者ノ相續人ヨリモ丁稚ヨリモ之ヲ解クコトヲ得

(ヘ) 第三百三十一條ニ他ノ業ヲ學ハント欲スルルハ書面ヲ以テ之ヲ申出スヘシトアリ又營業者ハ書面ヲ差出シタル後仍ホ四週間丁稚ヲ留置クコトヲ得ルモノハ容易ニ丁稚ノ關係ヲ解カシメサルカ爲メナリ且本條第二項ハ此關係ヲ解クル法律ヲ避クヘキコトヲ防ク爲メナリ

(ト) 第三百三十二條第三百三十三條此規則ハ教業時間ノ經過スル前ニ

契約ヲ解キタルカ爲メ營業者又ハ丁稚ヨリシテ損害ヲ出スコトニ付テハ契約者ノ契約ニ因ルヘシ然レモ公ケノ利害ニ關スル場合ニ限リ(例ヘハ丁稚ノ理由ナリ強テ業ヲ離ル、カ如シ)法律ヲ以テ損害ノ賠償高ヲ明示シタルナリ(第三百三十三條第一項)損害ノ賠償高ハ裁判ニ於テハ甚タ定メ難クハナリ其他ハ營業者ト丁稚トノ間ニ損害ノ償ニ付キ起ル争ヒハ成ルヘキ丈ケ制限スルノ意ナリ抑々損害ノ償ハ教業契約ノ書面ヲ以テ爲サ、ルルハ之ヲ求ムルコトヲ得ス(第三百三十二條一項)契約ノ解ケタル後四週間ヲ經レハ期滿得免トナルヘシ(第三百三十一條第二項)然レモ其契約ノ營業者又ハ丁稚ノ過誤ニ非スシテ解キタルルル則チ試ミ時間ノ内ニ解クカ又ハ死去ニ因テ解クカ又ハ其業ヲ變スルカ爲メニ解クルハ其契約書ニ

損害ノ償ヲ出ストノミ記スル分ニテハ足レリトセス其損害ヲ償フ
ヘキモノ、種類金高ヲ掲ケサレハ其効ナシ(第百三十二條一項)
第百三十三條一項ニ於テ丁稚ヨリ強テ契約ヲ解キタルハ其ノ損害高
ハ丁稚ノ爲ス(業)トノ價ハ凡ソ「ゲセルレ」^{ゲセルレ}「ゲヒユルヘ」ノ爲ストノ
價ノ半價ニ因テ定メタルナリ

第十九 第四章製造場職人ノ關係

已ニ第三第八ニ於テ法律ニ於テハ製造場又ハ製造場職人ノ意義ヲ
定メス然レモ第七篇第四章ノ製造場職人ト云フ者ハ製造場中及ヒ
第百五十四條第二項第三項ニ於テ製造場ト同視スヘキ勞力場中ニ
(製造場外ノ者ヲ除ク)勞力ヲ爲ス男女ノ職人ヲ云フヘキコトヲ既ニ
説明セリ並ニ製造場ハ學校ニ入ルヘキ幼年者ヲ抱入ル、ノ特權ヲ

有スルコトモ亦既ニ説明セリ(第十三)

此特權并ニ製造場ニハ幼年者ノ勞力ヲ爲スモノ、夥多ナルヨリシ
テ製造場ニ幼年者ヲ勞力セシムルコトニ付キ別段ノ規則ヲ要スルナ
リ第四章ハ大抵(第百三十九條(ロ)ヲ除ク)幼年者ノ勞力ニ關スル
規則ナリ

此章ノ言語ニ從ヘハ(先ツ言語ヲ説明スルヲ必要トス)第百三十五
條一項ニ十二歳未滿ノ幼年者ヲ製造場ニ抱入ル、トヲ得スト掲ケ
タル外ハ(イ)子供トハ十二歳ヨリ十四歳マテノ男女職人ヲ云フ
(ロ)弱年者トハ十四歳ヨリ十六歳マテノ男女職人ヲ云フ(ハ)幼年
職人トハ(別ニ言語ノ定メナキハ)十二歳ヨリ十四歳マテノ
子供ト十四歳ヨリ十六歳マテ間ノ幼年者則(イ)(ロ)ニ掲ケタル者

ノイハウス氏説明下

ヲ云フナリ

二百五十六

製造場ニ勞力ヲ爲ス幼年ノ職人ノ員數ニ付キ千八百七十八年六月十七日ノ法律理由書ニ左ノ如ク掲ケタリ

幼年者職人ヲ勞力ニ使フコトノ度外ニ越エタルカ爲メ概ネ幼年ノ職人ヲ使用スル營業ニ付キ其職人ノ總數及ヒ割合ヲ確定スルヲ必用ナリトス則其確定ニ因レハ幼年ノ職工ハ(總數八万八千人アリ)總職人ノ十分ノ一ニアリ其四分ノ三ハ十四歳以上ノ年齢ニアリ四分ノ一ハ十四歳以下ノ年齢ニアリ其五分ノ二ハ女子ニシテ五分ノ三ハ男子ナリ其多分大抵五分ノ二ハ機織職人ニシテ之ニ次キ大抵七分ノ一ハ礦業金銀分析職人或ハ烟草卷職人ナリ其他ノ業ニ於テハ之ニ次クヘキ員數ナシ

之レニ因テ觀レハ第七篇第四章ノ規則ハ人々ノ割合ニ幼年ノ職人多キカ爲メニ其幸福ヲ圖リタルモノナリ

第二十 第三百三十四條此規則ノ理由書ハ左ノ如シ第三百三十四條ノ規則ノ最初ノ部ハ舊規則第二百二十七條ト同シ則「ゲセルレ」「ゲヒユルヘ」及ヒ幼年ニ非サル製造場職人ハ法律ニ於テ同等ト看做スヘキ是レナリ

幼年ノ職人就中丁稚ハ製造場職人ヨリハ全ク異ナルモノト看做スヘカラス十六歳未滿ノ丁稚ニシテ製造場ニ抱入レラレタルハ(其他判決ニ因テ同等ニ看做サレタリ)仍之ヲ幼年ノ製造場職人トスヘシ故ニ此章ノ規則ハ其職人ニモ亦適用スヘク又其職人ハ丁稚ニ付キ特ニ定メタル規則ニモ從フヘシ然レモ之ヲ明白ニセンカ爲

ノイハウス氏説明下

二百五十七

メ別ニ箇條(新規則ニ於テ)ヲ設ケテ之ヲ示スコトヲ至當トセリ

第二十一 第三百三十五條第三百三十六條幼年ノ職人ヲ製造場ニ使用スルコトニ付テハ左ノ制限アリ(イ)十二歳未滿ノ子供ハ全ク使用ス可カラス

(第三百三十五條一項)(ロ)十二歳以上ノ者ニシテ未タ小學校ヲ免カレサル者ハ(第十二ノ)(ハ)ヲ比較スヘシ(小學校カ又ハ學校監督官ヨリ許可ヲ得タル學校ニ於テ其規則ニ從ヒ日々少ナクモ三時間ノ教育ヲ受ケシムルニ非サレハ製造場ニ使用スヘカラス(第三百三十五條第三項)政府ノ草案中ニハ少クモ三時間ノ代リニ少クモ一週間ニ十八時間ト記セリ此規則ヲ實際ニ施行スルカ爲メニ普魯西國ニ於テハ千八百四十八年十一月二十六日ニ製造場等ニ使役スル子

供ノ教則ニ付キ布達ヲ發シタリ(内務行政布達全書二百六十六葉)

(ハ)日曜日祭日并ニ僧侶ヨリ定メタル宗旨ノ教育時間ニハ幼年ノ職人ヲ使用スルコトヲ得ス(第三百三十六條ノ三項)

(ニ)幼年ノ職人ノ働キ時間ハ午前五時半ヨリ午後八時半マテノ間ニ爲サシムヘシ(第三百三十六條一項)

(ホ)勞力時間ハ十二歳ヨリ十四歳マテノ者ハ一日六時間(第三百三十二條二項)十四歳ヨリ十六歳マテノ幼年者ナレハ一日二十時間(第三百三十四條四項)ヲ越ユ可カラス

(ヘ)勞力ヲ爲ス時間ニハ一定ノ休息ヲ爲サシムヘシ十二歳ヨリ十四歳マテノ子供ニハ半時間ノ休息十四歳ヨリ十六歳マテノ幼年者ニハ午前半時間午後半時間ノ休息ヲ爲サシムヘシ(第三百三十六條

一頂)

(ト) 休息ノ間ハ全ク勞力ヲ休スマシメ且幼年ノ職人カ働ヲ爲ス製造場ヲ休息ノ間全ク器械運轉ヲ休スマシムルニ非サレハ其場所ニ止マラシムルコトヲ得ス(第三百二十六條二項)

此規則ニ因テハ一ハ法律ヲ避クルヲ防キ一ハ成ヘク子供ニ空氣ヲ受ケシムル爲メナリ

第二十二 第三百三十五條第三百三十六條ハ幼年ノ職人ノ勞力ヲ制限スルコトニ付キ諸説紛ヤタルモノヲ折衷シテ定メタルモノナリ世人ハ第二十二ノ(ロ)(ニ)(ホ)ニ掲ケタル(已)ニ舊規則百二十八條ニモ掲ケタル)制限ヲ實際ニ施スコトハ難カラントノ疑ヒアレモ其制限ハ實際健康上已ムコトヲ得サルモノニシテ社會ノ幸福ト爲ルモノナ

リ若シ其制限ヲ増シタルモハ屢々營業者又ハ職人ヨリ其法ニ背キ易キ弊アルヘシ故ニ斯ク兩條ノ如ク定ムヘキコトヲ信セリ

又此制限ハ一般ニ適用スルコトヲ得サルト一時又ハ永久ノ格外ヲ爲サ、ル可カラサルコトヲ信セリ

其格外ハ左ノ場合ニ於テ爲スヘシ

(イ) 天災又ハ事變ニ遭ヒ製造場ノ運轉ヲ止メタルカ又ハ運轉ヲ止ムヘキ災難ノ起リタルモハ其製造場ニ於テ一時格外ヲ爲スコトヲ得(第三百二十九條一頂)

(ロ)(一) 運轉ノ仕方又ハ勞力上ニ別段ニ注意ヲ爲スヘキモハ其製造場ニ場合ヲ定メテ永久ノ格外ヲ爲スコトヲ得(第三百二十九條二項)
(二) 第三百二十九條ノ(イ)二項ニ掲ケタル製造場ニ第二十一ニ掲ケ

タル制限ヲ適用スルコト能ハサルキハ一切格外ヲ爲スコトヲ得

但(一)(二)ニ掲ケタル格外ハ休業ノ時間ト時間ノ分チ方勞力時間
ノ始リト終リト及ヒ日曜日祭日ノ勞力ニ付キ爲スヘキモノトス唯
タ(二)ノ場合ニ於テハ又一週間ニ付キ定メタル勞力時間ヲ各日ニ
割付クルコトヲ得一ノ場合ニ於テハ各日ノ勞力時間ハ六時又ハ十時
ヲ越ユルコトヲ得ス

營業規則第三百三十九條第一項第二項ノ規則ヲ施スカ爲メニ普魯西
ニ於テハ千八百七十八年十一月五日ニ通商卿ヨリ布達ヲ發セリ

(內務行政布達全書二百六十四葉)

第三百三十九條(イ)ヲ實施スルカ爲メニハ(イ)千八百七十九年四月

二日ニ上院ニ於テ女ノ職人及ヒ幼年ノ職人ヲ道路修復及ヒ槌打硝

リルコトニ付
ハシムルコトヲ
スルコトヲ

子製造ニ使用スル規則ヲ決定シタリ此決定ハ千八百七十九年四月
十七日ニ通商卿ヨリ布達ヲ發シテ公告シタリ(內務行政布達全書
九十七葉)

(ロ)機械ニ幼年ノ職人ヲ使用スルコトニ付キ上院ノ規則ハ千八百七
十九年五月二十日ニ宰相ヨリ公告シタリ(內務行政布達全書九十
七葉)

第三百三十五條ト第三百三十六條ノ規則ハ第三百三十九條(イ)一項ニ因
テ甚タ嚴ニセリ故來ノ經驗ニ因リ設クルヲ得サル嚴ナル規則ニ付
テハ理由書ニ左ノ如ク云ヘリ

或ル營業ニ於テハ幼年營業者ヲ使用スルカ爲メニ大ニ成長ヲ害ス
ルノ弊アリ例ヘハ早附木製造場麻精製所烟草製造場硝子研磨所縫

針製造場ニ於テ爲シタル實驗ニ因レハ其職人ヲ保護スルノ方法ヲ設クルト急務ナリトス又屢々之ニ關スル布達ヲ發セシトハ之ニ害アルトノ一證據ト爲ルヘシ既ニ英國又ハ佛國瑞士ニ於テモ其實驗ニ因テ保護法ヲ設ケシカ如シ

第二十三 十二歳ヨリ十四歳マテノ子供ハ第三百三十七條ノ第一項ニ從ヘハ營業者ニ履歷端紙ヲ差出シタル後ニ非サレハ使用スルトヲ得ス履歷端紙ハ第三百三十七條二項ニ從ヘハ地方警察官ヨリシテ交付スヘシ營業者ハ受取タル履歷端紙ヲ抱入中ハ保存スヘシ(第三百三十七條三項)

履歷端紙ノ用ハ如何ナルモノナルカ警察官ヨリシテ子供ノ學校ニ出ツヘキヤ否ヲ監督シ出テサルトハ至當ノ處分ヲ爲サシムルト及ヒ傭入タル職人カ營業規則第七篇ニ謂フ所ノ子供ナルニヘ其勞力ニ付テハ一定ノ制限ノアルトヲ營業者ニ知ラシムルトニアリ故ニ營業者及ヒ其代理人ハ二十一歳未滿ノ職人ニシテ履歷書又ハ履歷端紙ヲ所持セサル者ハ抱入レタルトハ其職人ノ子供ニアルカ又ハ幼年者ニアルトヲ知ラサルヲ以テ口實ト爲シ其責ヲ免カル、トヲ得ス又營業者ハ其履歷書及ヒ履歷端紙ヲ傭入中ハ保存シテ何時ニテモ警察官ノ求メアルトハ之ヲ示スヘシ(第三百三十七條三項第七條一項)則營業者ハ二十一歳未滿ノ職人ノ履歷書又ハ履歷端紙ヲ所持シ警察官ニ示スヘキ義務アレハ製造場検査(第三百三十九條(ロ)一項)ノトキニ必ス發覺スルモノナレハ濫リニ幼年ノ職人ヲ製造場ニ使用スルヲ得ス

子供ニ履歷書ヲ所持セシメス履歷端紙ヲ所持セシムルモノハ子供
ハ學校ニ出ツルヤ否ノ監督ヲモ受クヘキモノナレハ其他ノ二十一
歳未満ノ者ニ與フルモノヨリ外形ノ異ナルモノヲ與フルノ便利
ナルカ爲メナリ

第二十四 第三百三十八條ハ幼年ノ職人ニ付キ定メタル規則ヲ遵奉ス
ルヤ否ヲ監督シ易カラシムル法ヲ定メタルナリ

第二十五 製造場ト同様ニ看做スヘキ(第三百五十四條二項三項)勞力
所ニ於テ女子ヲ使用スルニ就テハ左ノ制限アリ

(イ) 出産後三週間ハ使用ス可カラス

此期限ヲ四週又ハ六週間ニ延ハスヘキヤニ付キ議論アリキ然レモ
延ハスノ說ハ行ハレス何トナレハ三週間ヨリ長ク休業ヲ爲スル

ハ家内ノ活計ニ差支アルカ爲メニ實際行ハレサレハナリ(第三百
十五條五項)

(ロ) 上院ノ決議ニ因リ或ル製造場ニハ夜間ノ職業ニ女子ヲ使用ス
ルヲ禁スルコアリ(第三百三十九條(イ)一項)

(ハ) 婦人ハ第三百五十四條第三項ニ掲ケタル勞力場ニ於テハ地中ニ
使役ス可カラス(第三百五十四條四項)

第二十六條 第三百三十九條(ロ)ノ一項ニ從ヘハ營業規則第七篇第四
章及ヒ第二百二十條第三ノ規則ヲ製造場ニ於テ遵奉スルヲ監督ス
ルコトハ警察官ノ任ナレモ警察官ニハ十分ナル監督ノ時間ナク且營
業上ノ技藝ニ乏シケレハ監督ノ完全ナルコトヲ得ス故ニ普國ニ於テ

ハ營業監督官(則チ製造場監督役)ニ擔任セシメタルナリ然ルモハ
シベリア
シベリア

ノイハウス氏説明下

其監督ニ十分ナル効アリ

第三百三十九條二項ヲ實施スルコトニ付キ普國ニ於テハ千八百七十九年五月十四日布告ヲ發シタリ(法律全書三百五十三葉)千八百七十九年五月二十四日ニ營業監督官ノ爲メ卿ヨリ布達ヲ發シタリ(內務行政全書百五十二葉)此布達ニ從ヘハ營業監督官ノ職務ハ左ノ如シ

一 第三百三十九條(ロ)第五百四十四條ニ掲ケタル權限ヲ以テ(鑛山官署ノ監督ニ付スル製造場ヲ除ク)(イ)ハ婦人及ヒ幼年ノ職人ノ勞力ニ關スル規則ヲ遵奉スヘキヤ否ヲ監督シ(ロ)第二百二十條ノ三項ノ規則ヲ遵奉スヘキヤ否ヲ監督スルコト

二 營業規則第十六條及ヒ其規則ノ補正規則ニ從フヘキ製造場ヲ監督スヘキコト

營業監督官ハ國王ヨリ管轄地ヲ定メテ任シ其州ノ官署ト並ヒ縣令ノ屬官タルヘシ地方及ヒ郡警察官ニ對シテハ政府ノ委員ノ地位ニ在ルモノナリ營業監督官ハ其事務ヲ警察官ニ代テ爲スモノニ非ス却テ警察官ノ輔佐ヲ受ケ又ハ州官署ト協議シテ營業規則及ヒ其規則ニ關スル規則ヲ其管轄内ニ實施スルコトヲ監督スルナリ

營業監督官ハ第三百三十九條(ロ)一項ニ從ヘハ地方警察官ノ權限ヲ有スルモノナレド罰金ヲ科シ又ハ行政上執行ヲ用ユル命令ヲ發スルコトヲ得ス

犯則ヲ爲シ及ヒ營業上ニ妨害ヲ爲ス場合ニハ之ヲ説諭スヘシ若シ説諭スルモ之レニ從ハスシテ罰スヘキカ又ハ行政執行ヲ爲スヘキ場合ニハ地方警察官ニ其旨ヲ届出ツヘシ警察官ハ其罰スヘキモノ

ハ之ヲ罰シ其執行スヘキモノハ執行ヲ爲スヘシ
一般ノ妨害タルコトヲ察スレハ州官署ニ報知スヘシ

營業監督官ノ罰ヲ科シ又ハ執行ヲ爲スヘキ權利ヲ有セサル理由ハ
營業監督官ハ法律ニ明カナラサルヲ以テ罰則又ハ執行法ニ關スル
争ヒニ加ハラシメサルト及ヒ執行ヲ爲サシムル下役人ヲ有セサレ
ハ其場合ニハ毎々地方又ハ郡ノ警察官ニ其依頼ヲ爲サ、レハ得サ
ルト且警察官ト説ノ異リ易ケレハナリ

第八篇 營業上ノ救助貯蓄所

第一 第八篇ハ舊規則ニ因レハ第四百十條第四百十一條ヲ以テ成立
タリ第四百十條ハ獨立スル營業者ノ救助貯蓄所ヲ定メ第四百十一
條ハ獨立セサル營業者ノ救助貯蓄所ヲ定メタリ

第四百十一條ハ千八百七十六年四月八日ノ法律（獨逸法律全書第
百三十四葉）ニ因テ廢止セラレタリ其代ニ此法律第一章ヲ設ケタ
リ該章ハ第四百十條及ヒ第四百十一條（イ）ヨリ（ハ）マテノ條ヲ含
メリ第二章ハ新舊貯蓄所ノ關係ヲ定メタリ

第二 營業上ノ救助貯蓄所トハ「フンテルスツグンスカツセ」ト
モ云フ）概シテ之ヲ言ヘハ獨立スルカ又ハ獨立セサル營業者ノ病
氣ニ罹リタルト又ハ其他ノ不幸ニ遇ヒタルト其者ヲ救助スヘキ貯
蓄所ニシテ營業者ヨリ出金シテ保存スルモノナリ其目的ハ營業
者ノ爲メニ財産上又ハ道德上ノ利益ヲ與フルニ在リ其他場合ニ因
テハ地方貧窮民救助ヲ補フ爲メニ缺ク可カラサルモノナリ則團結
内ニ「インヅストリ」カ進歩シテ來リテ無力ナル職人ノ漸次ニ増

加シ團結ヨリシテ貧窮民救助ノ義務ヲ盡ス可能ハサル場合はレナ
リ

第三 第四百十條ノ一項ニ從ヘハ地方規則又ハ行政官ノ命令ニ因テ
獨立スル營業者ノ疾病用意貯蓄所非常用意貯蓄所又ハ死後ノ爲メ
ノ貯蓄所ニ加入スヘキ義務ハ全ク之ヲ廢止セリ止タ營業者組合規
則ニ因テ定メタル其社中ノ此ノ如キ貯蓄所ニ加ハ、ル可キ義務ハ
其儘存セリ

第四百十條第二項連邦ニ於テ各人又ハ組合ニ因テ行政官ノ許可ヲ
得ストモ法律ニ從テ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ヲ得ヘキ所ニ
於テハ其法律ハ營業規則ニ於テ變セラル、コナシ

普魯西國ニ於テハ法律上人ト看做スヘキ者ノ權利ハ政府ヨリ明カ

ニ又ハ自然ニ其權ヲ與ヘタル所ニ得ルモノトス

第四 千八百七十六年四月八日ノ營業規則ノ第四百四十一條ヲ廢シタ
ル法律ノ一般ノ說明千八百六十九年六月二十一日ノ營業規則草案
ハ獨立セサル營業者ノ爲メニ救助貯蓄所ヲ盛ンニ設クルコトヲ政府
又ハ團結ノ急務トセリ則團結官署ハ一地方ニ於テ及ヒ(團結官署
ニテ貯蓄所ヲ設ケサル所ハ)政府ノ官署ハ數箇ノ地方ニ於テ「ゲセ
ルレ」デヒユルヘ「製造場職人及ヒ丁稚ノ爲メニ設ケタルカ又ハ新
タニ設クル救助貯蓄所ニ加ハルヘキ義務ヲ定ムルノ權限ヲ與ヘ此
草案ハ下院ニ於テ抗論ヲ受ケタリ

是時營業規則ノ草案ノ決議ヲ速カニセンカ爲メニ第四百四十一條ニ
於テ假リノ規則ヲ設ケタルナリ則第四百四十一條ノ二項ニ於テ下院

ノ説ヲ採用シテ「ゲセルレ」等ノ加入スヘキ義務ヲ有スル貯蓄所ト
隨意ニ加入スヘキ義務ヲ有スル貯蓄所トヲ設ケテ同等ニ看做セリ
〔舊營業規則第四百四十一條地方規則又ハ行政官ノ命令ニ因テ定メ
タル「ゲセルレ」ゲヒユルヘ製造場職人丁稚ノ一定ノ貯蓄所ニ加ハ
ルヘキ義務ハ是ヨリ他ノ貯蓄所ニ加ハリタルコトヲ證スルキハ其義
務ヲ免カルヘシ〕

然レモ救助貯蓄所ノ進歩ハ第四百四十一條ノ規則ニ因テハ十分ノ功
ヲ奏セザリシナリ

一ハ必ス加入ス可キ義務ヲ有スル貯蓄所ニ對シ其効能ヲ妨ケタリ
殊ニ下院ノ反對説ニ因テ其貯蓄所ノ永久スル信用ヲ失ヒ且後來何
レノ貯蓄所ニ定ルヤノ明カナラサレハ其貯蓄所ノ規則ヲ改正スル

コトニ忘リシナリ

一ハ隨意ニ加入スヘキコトヲ得ル貯蓄所ハ十分ニ自由ヲ得ルコト能ハ
サリシ何故ナレハ連邦ノ法律ニ於テ其貯蓄所ヲ認ルコトニ付キ圖ル
可ラサル制限ヲ受クレハナリ

右ノ理由ヲ以テ法律ヲ改正セサル可カラズ

第五 如何ナル改正ヲ爲スヘキヤニ付テハ必ス加入スヘキ義務ヲ主
張スル者ト(職工ヲシテ必ス一貯蓄所ニ加入スヘキ方法ヲ設ケン
トスル者)隨意ニ加入スヘキ義務ヲ主張スル者ト(如何ナル救助貯
蓄所ニ加入スルヤハ職工ノ隨意ニ任カセントスル方法ヲ設ケント
スル者)ノ説異ナレハナリ

然レモ獨逸國ノ法律ハ(千八百七十六年四月七日ノ登記救助貯蓄

所法律及ヒ千八百七十六年四月八日ノ營業規則第八篇ヲ改正スル規則)其中間ヲ折衷シタルモノナリ則チ之ヲ詳細ニ言ヘハ

(イ)團結官署及ヒ大ナル團結ニ(州郡ヲ云フ)「ゲセルレ」
「ゲヒユル」ヘ製造場職人ノ疾病ノ并互ニ相救助ヲ爲ス爲メ貯蓄所ニ加ハルヘキ義務ヲ定ムル權ヲ團結ニ與ヘタルナリ

(ロ)團結ヨリシテ(イ)ノ貯蓄所ヲ設ケントスルニハ必ス「ゲセルレ」
「ゲヒユル」ヘ製造場職人ノ疾病ノ爲メナル救助貯蓄所ヲ(一定ノ方法ニ從テ設クヘキ義務ヲ負ハシタリ)

(ハ)(イロ)ニ從テ貯蓄所ヲ設ケタル并ハ「ゲセルレ」
「ゲヒユル」ヘ製造場職人ハ他ノ(ニ)ノ貯蓄所ヲ指ス)貯蓄所ニ加ハリシトテ證セサレハ(ロ)ノ貯蓄所ニ必ス加入スヘキ義務アリ

(ニ)團結官署ノ命令ニ因ラスシテ隨意ニ設ケタル貯蓄所ニ於テ或ル要件ニ從ヘハ或ル權利ヲ有セシメ之レニ因テ獨逸國內ノ隨意ニ加入スルトテ得ル貯蓄所ヲ確固ナラシメタルナリ(登記救助貯蓄所ヲ指)

第六 第五ニ掲ケタル原則ヲ定メタル所以ハ左ノ如シ

(イ)救助貯蓄所ヲ進歩セシムルニハ必ス加入ス可キ義務ヲ定メサレハ能ハス「ゲセルレ」
「ゲヒユル」ヘ製造場職人ヲシテ隨意ニ貯蓄所ヲ設ケシムル并ハ後來其進歩セサルト明カナリ
普國ニ於テハ千八百七十二年ノ末ニハ是等ノ者ノ爲メ四千六百九十ノ貯蓄所アリ其内多クハ必ス加入スヘキ義務ヲ有スル疾病用意貯蓄所又ハ死後用意貯蓄所ナリシナリ其全社員ハ七十二万四千八

百七十八人アリシナリ一年ニ救助ヲ爲シタル高ハ五百九十五万三千「マルク」現金高ハ八百四十六万千「マルク」アリシ然ルニ千八百七十二年ニ隨意ニ加ハル義務ヲ有スル獨逸手細工人組合ノ爲メノ貯蓄所ハ總カニ三百十五アリ其社員ハ二万人アリ一年ニ救助ヲ爲シタル高ハ十三万八千「マルク」現金高ハ九万「マルク」ナリシナリ其他組合ニ屬セサル小ナル貯蓄所ハ其數多クシテ枚擧スルニ遑アラズ（ロ）必ス加入ス可キ義務ヲ原則ト定ムルハ法律ヲ以テ其原則ヲ定ムヘキヤ否ノ問題アリ法律ヲ以テ定ムルハ必要ナラサルノミナラス又便利ナラス却テ従前ノ如ク地方ニ任カスルヲ勝レリトス又其貯蓄所ヲ設クヘキカ否ニ付テハ矢張之ヲ團結ニ任カスヘキモノトス況ヤ團結ハ法律上窮民ヲ救助スヘキ義務ヲ負フ者ナレハ「ゲ

セルレ」「ゲヒユル」へ製造場職人ノ多ク居ル地方ニ於テハ宜シク其貯蓄所ヲ設ケテ窮民救助ノ一助ト爲ヘシ

團結中ニハ救助ヲ要スヘキ「ゲセルレ」等ノ多ク居ラスシテ數箇ノ團結ヲ合セテ「ゲセルレ」等ノ救助ヲ要スヘキ貯蓄所ヲ設クヘキ場合ニ於テハ亦州郡ノ全部又ハ一部ノ爲メ之ヲ設クル權利ヲ州郡ニ與フルコトヲ至當ナリトス

（ハ）又如何ナル職工ノ爲メニ必ス加入スヘキ義務ヲ定ムヘキヤノ問題アリ營業規則ニ從ヘハ「ゲセルレ」「ゲヒユル」へ製造場職人ヲ以テ十分ニ職工ノ意義ヲ云ヒ盡シタルモノニ非ス是等ノ者ノ外ニ丁稚及ヒ「ハウスインツストリ」ノ職工アリ

然レモ丁稚ハ止タ業ヲ學フノミニテ利益ヲ得サル職人ナレハ上院

ヨリ發議シタル必ス加入スヘキ義務ヲ下院ニ於テ廢棄セラレタリ
「ハウスインツストリ」ノ職工ハ其義務ヲ監督シ能ハサルヲ以テ
之ヲ免カレシメタルナリ

(三)如何ナル場合ノ爲メ(疾病ノ時又ハ其他ノ不幸死去等ノ爲メ)
必ス加入スヘキ義務アリヤノ問題アリ然ルニ從來ノ貯蓄所ノ内ニ
テ疾病用意貯蓄所ノ最モ盛大ト爲リタルニ因テ止タ疾病ノ爲メニ
加入スヘキ義務ヲ定ムルコトニ決シタリ

千八百七十六年四月七日ノ登記貯蓄所規則ノ理由書ハ以上ノ關係
ニ付テハ左ノ如ク云ヘリ

職人ノ疾病老衰死去ノ時ハ困窮ヲ防クカ爲メニ種々ノ方法ヲ設ケ
タリ其要點ハ何レモ相互ニ保險スヘキニアリ而シテ其貯蓄所ハ疾

病用意貯蓄所老衰用意貯蓄所死後用意貯蓄所寡婦貯蓄所孤兒貯蓄
所等ニ分レリ是等ノ貯蓄所ノ進歩ハ甚タ不同ナリ其内疾病用意貯
蓄所ハ一部ハ營業上ノ法律ニ因テ大ニ進歩シタレモ死後用意貯蓄
所ハ著シキ進歩ナシ老衰貯蓄所等ハ進歩スルコトナク設立シタル時
ト殆ント同シ元來法律ハ是等ノ貯蓄所ノ爲メ都テ進歩セシムヘキ
モノナレモ草案ニハ止タ疾病用意貯蓄所ノミヲ定メタルモノハ此
貯蓄所ハ一種特別ノ者ニシテ他ノ貯蓄所ヨリハ精密ニ取調ヘタル
ノミナラス之カ爲メ法律ヲ發スヘキコトハ他ノ者ニ比スレハ最モ急
務ナレハナリ疾病用意貯蓄所ハ最モ取調ノ付キタルモノナレハ其
編制及ヒ管理ノ方法ヲ定ムルニ適當ナルコトヲ得レ共他ノ貯蓄所ハ
之レト異ナリ又疾病用意貯蓄所ニ加入スヘキ社員ノ利害ハ他ノ貯

蓄所ニ比スレハ餘程大ナルヲ以テ精細ニ方法ヲ定メサルヲ得サルナリ

第七 第五ノ(イハ)ヨリ(ニ)マテニ掲ケタル原則ヲ實際ニ施スカ爲メニ法律ヲ發シタリ

(イ)千八百七十六年四月七日ノ登記救助貯蓄所法律(獨逸法律全書百二十五葉)及ヒ千八百七十六年五月十五日ニ同法律ヲ施行スル爲メニ發シタルノ布達(内務行政布達全書)

(ロ)營業規則第八篇ヲ改正スル爲メ發シタル千八百七十六年四月八日ノ法律(已ニ第一ニ掲ケタリ)(獨逸法律全書百三十四葉)

此二ノ法律ハ互ニ相合同シタルモノニシテ之ヲ分離スルコトヲ得ス先ツ千八百七十六年四月七日ノ法律ヲ説明セン

第八 千八百七十六年四月七日ノ法律ノ要略ニ付キ一般ノ説明

(イ)此法律ハ第六ノ(ニ)ニ掲ケタル理由ニ從ヒ止タ疾病ノ其社員ヲ救助スヘキ貯蓄所ノ關係ヲ定メタルナリ

(ロ)此法律ニ定メタル社員ハ職工タルモ又ハ營業タルモ之レニ區別スルコトヲ必要トセス此登記貯蓄所ハ如何ナル身分ニシテ如何ナル職業ヲ爲ス者ノ爲メニモ其登記ヲ爲セハ之ヲ設クルコトヲ得ルナリ

(ハ)此法律ハ連邦ノ法律ニ從テ設ケタル貯蓄所ヲ廢スルノ趣意ニ非ス止タ新ニ別段ノ貯蓄所ヲ設クル爲メノ趣意ナリ(第三十六條)
(ニ)此法律ハ一定ノ要件ヲ掲ケ都テ此要件ニ適ヒタル貯蓄所ニハ登記貯蓄所ノ權利(特權)ヲ得セシムルナリ其權利ハ左ノ如シ

ノイハウス氏説明下

- 一 容易ニ貯蓄所ヲ設クルヲ得ルコト但貯蓄所ノ規則ノ法律ノ要件ニ適ハサルハニ限り之ヲ拒ムコトヲ得
- 故ニ其規則ノ便不便ニ付テノミニテハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 二 別段ニ下付スルコトナクシテ權利ヲ得ルコト(第五條)
- 三 職人ノ出金ヲ營業者ヨリ其賃錢ヨリ引去テ出金セシムルヲ得ルコト(第九條)
- 四 貯蓄所ヨリ拂フヘキ救助金ヲ取押フ可カラサルコト(第十條)
- 五 社員ノ延納金ヲ行政執行法ヲ以テ取立ルヲ得ルコト但通常裁判所ニ訴フルコトヲ得(第十四條三項)
- 六 別段ノ委任ナク社長ヨリ貯蓄所ノ代理ヲ爲スコト(第十六條一項第十七條二項第十八條)

七 千八百七十六年四月八日ノ法律(營業規則第八篇)ニ從ヒ「ゲセルレ」デヒユルヘ「及ヒ製造場職人ノ貯蓄所ニ加入スヘキ義務ハ登記貯蓄所ニ加ハリタルニ因テ之ヲ免カル、コトヲ得ルコト

(ホ)此法律ニ因テハ貯蓄所ノ永久スルコトヲ得ル方法ヲ定メタリ其永久保存ヲ保證スルニ非ス故ニ其貯蓄所ヲ許スニ付テハ後來維持スヘキ力ヲ有スルヤ否ヤヲ證明セシメサルナリ

此法律ノ理由書ニ左ノ如ク云ヘリ

法律ニ於テハ貯蓄所規則ニ因テ社員ニ約シタルコトヲ守ラシムル保證ヲ爲スコトヲ得ス法律ハ貯蓄所ノ編制ヲ定メ其管理及ヒ確實ナルコトヲ吟味スルコトヲ得ル方法ヲ社員ニ與フルコトヲ得ルノミニ則チ此法律ハ此方法ノミヲ定メタルナリ且又永久維持スヘキ力ヲ最初ヨリ

シテ確ト認ルコトハ甚タ難キニ非スヤ然レモ貯蓄所ヲ維持スルコトハ三ノ要件ニ基ケリ則チ社員ノ出金及ヒ貯蓄所ヨリ出ス救助金ノ權衡ヲ得ルト其社員ノ數多クシテ其時ノ疾病ニ罹リタル者アルカ爲メニ貯蓄所ニ大ナル響ヲ生セシメサルト疾病ノ場合ヲ嚴ニ監督シテ僞病者ナカラシムルトニアリ

其他理由書ニ何レノ貯蓄所ニモ適用シ得ヘキ一般ノ疾病死去表ナシト云ヘリ(其表ハ各異ナレハナリ)且獨逸國ニ設ケシ貯蓄所ノ表ノ平均數ハ其貯蓄所ノ區域ヲ各別ニ爲シ社員モ屢々更替スレハ其表ニ據ルコト能ハスト云ヘリ例ヘハ「ゲセルレ」貯蓄所ノ社員ハ僅カナル間則身體強壯ノキノミ其社員ト爲レリ製造場職人貯蓄所ノ社員ハ老衰マテ其社員ニ在ルカ如シ又夏冬ヲ限リタル製造場ノ爲メ

ニ設ケタル貯蓄所ハ年々社員ノ多分ヲ更替スレモ年内續テ同一ノ所ニ止マル職人ノ爲メニ設ケタル貯蓄所ハ其社員ヲ變セサルカ如シ又ハ仕立屋靴屋ノ「ゲセルレ」ノ爲メニ設ケタル貯蓄所ハ素ト其仕事ノ易キカ爲メニ健康ヲ害スル者少ナケレトモ屋根屋大工ノ「ゲセルレ」ノ爲メニ設ケタル貯蓄所ハ甚タシキ難害ニ遭ヒ易キモノナルカ如シ

理由書ニハ以上ノ如ク云ヒタル後左ノ如ク云ヒ終ハレリ
貯蓄所ノ維持力ヲ預シメ確定セサルコトハ素ヨリ貯蓄所ノ爲メニハ不利ナレモ一般ニ適用ス可カラサル表ヲ根元トシテ之ヲ確定スル
ルハ猶一層不利トナルヘシ

(ハ)此法律ハ成ル可ク丈ケ貯蓄所ノ編制管理ヲ簡便ニ設ケシムル

ノ趣意ナリ故ニ其目的ヲ達セシメンカ爲メニ必要ナル箇條ヲ定メ
其他ハ關係者ノ見込ニ從テ隨意ニ其詳細ヲ定メシムル趣意ナリ

(ト)貯蓄所ノ社員ハ貯蓄所ニ對シ止タ規則ニ定メタル出金ヲ爲ス
ノ義務アルノミ(第五條二項第八條一項)

第九 各條ニ付キ説明(第一條疾病ノ時ニ社員相互ニ救助スル貯蓄
所等)

(イ)法律理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ

相互ニ救助スルニハ社員自カラ定マリタル出金ヲ爲シテ貯蓄所ノ
救助ニ充ツルカ又ハ其救助ヲ補フニ非サレハ其趣意ニ適セス
全ク社員ニ非サル者ヨリ救助金ヲ出シタル貯蓄所則チ止タ營業者
ヨリ出金シタル者ノ如キハ此法律ニ所謂ノ貯蓄所ニ非ス

(ロ)法律ハ止タ疾病ノ時ニ限り救助スルコトヲ許シ老衰及ヒ不具ト
ナリタル者ノ爲メノ貯蓄所ト區別セリ

第十 此法律第一條ノ疾病トハ理由書ニ從テ見レハ健康ノ損シタル
コトヲ云フ就中事變等ニ因テ生シタル身体ノ損シタルコトヲ云フ其他
第十二條ノ四項ニ從ヘハ疾病ノ時ノ救助ノ外ニ又社員ノ死シタル
并埋葬ノ救助ヲ爲スコトモ許セリ

妻及ヒ其他ノ家屬ノ疾病ノ時ノ救助ハ之ヲ許サス止タ醫藥診察料
(獨逸古ヨリノ慣例ナリ)ヲ給スルコトヲ得(第十三條三項)

第十一 (第四條)登記貯蓄所ニハ第八ノ(ニ)ニ掲ケタルカ如キ特權
ヲ與フレハ政府ニテ其規則ノ法律ニ適スルヤ否ヲ検査スルヲ必要
ナリトス故ニ其貯蓄所ヲ許可スルコトハ止タ政府ニテ其規則ノ法律

ニ適ヒタルコトヲ認ムルノミニシテ決シテ關係者ノ隨意ニ因テ作りタル規則ノ便利ナルコトヲ認ムルニ非ス

第十二 第七條第一項ニ掲ケタル救助ヲ受クル權ナキ時間(則チ加入シタル後十三週間ハ救助セサルナリ)ハ古來ノ慣例ニ因テ定メタルモノニシテ其如何ナル用ヲ爲スヘキヤハ已ニ病ニ罹ラントスル者ヲ入レサルト又ハ流行病ノ時ニ止タ流行中貯蓄所ニ加入シテ流行病ノ止ミタルトハ再ヒ出ツル目的アル者ヲ入レサルトニ在リ」
第七條三項ニ掲ケタル疾病ニ罹リタル後ノ一週間ハ救助ヲ爲サ、ル趣意ハ通常自己ノ不注意ニ因テ起リタル不快又ハ僞病ニ救助ヲ爲サ、ルノ趣意ナリ且又病氣ノ日未タ深カラサルトハ必スシモ救助ヲ要スルモノニ非ス

第十三 (第十一條)此法律ハ疾病ノ爲メニ働キヲ爲スコト能ハサルノ場合ニ於テ其救助ノ最下額ト救助スヘキ最少數ノ時間ヲ定ムルコトヲ以テ足レリトセリ

救助ノ最下額ヲ定ムルコトハ甚タ難シ其最下額ヲ各社員ノ賃錢ノ幾分ニ從フカ又ハ現金ヲ以テ最下額ヲ定ムル能ハス「賃錢ハ増減アリ日用品ノ價ハ地方ニ因テ異ナリ

普通賃ニ從テ最下額ヲ定ムルトハ缺ク可カラサル飲食物ニ充ツルニ足ル確固ナル尺度トナレリ
又貯蓄所ヨリシテモ其普通高ヲ定メ易ク且地方ノ異ナルニ從テ之ヲ定ムルコトヲ得

疾病ニ因テ働キヲ爲スコト能ハサルトハ救助ヲ爲スヘキ最少數ノ時

間(少クモ十三週間ヲ救助スルコトナリ)ハ尋常ハ其時間内ニ快復スヘキ時間ヲ定メタルモノナリ理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ
其時間ハ平均ニ因レハ十分ナル者トス若シ救助時間ヲ長クスルルハ貧窮民ノ爲メニ甚々盡シ難キ義務ヲ負ハシムルナリ
救助時間ノ最多數ハ此法律ニ定メス然ナカラ身体ニ不具ヲ生シタルルキハ救助スルニ及ハス第一條ニ疾病ニ罹リタルルキトアルヲ以テ之ヲ救助セサルコト明カナリ

第十四 第十二條ノ二項ニ從ヘハ救助ノ外ニ快癒シタル後ノ防禦ノ爲メニ例ヘハ眼病人ニ目鏡ヲ與ヘ腸ノ出ル病ニ「ブリヨク」帶ヲ給スルコトアリ是レ全ク貯蓄所ノ利益ノ爲メニスルナリ

三項四項ハ已ニ説明スル如ク疾病貯蓄所ノ慣習ニ因リタルモノナリ四項ノ目的ハ理由書ニ從テ見レハ死シタル社員ニ至當ノ埋葬ヲ爲ス爲メナリ其他ニ救助スヘキコトハ生命保險又ハ死後用意貯蓄所ノ擔當スル所ナリ

第十五 (第十四條)營業規則第八篇ニ從ヘハ團結州郡ハ貯蓄所ニ加入セサル職工ヲ一定ノ貯蓄所ニ加入セシムル義務ヲ負擔セシムルコトヲ得故ニ多クハ社員自カラ好マスシテ貯蓄所ニ加入スルヲ以テ其規則ヲ嚴ニ監督スヘシ

第十四條ノ一項ハ當時社員タル者ノ貯蓄所ヲ永久維持スルノ爲メニ非ス自己ノ爲メニセントスル場合ヲ防ク爲メニ設ケタルナリ第十四條ノ二項ハ貯蓄所ノ在金ヲ以テ續テ救助ヲ爲スコト能ハサルルニハ前以テ其財産ヲ増サシムル爲メニ設ケタルナリ三項ハ貯蓄所

ノイハッス氏説明下

ノ爲メニ成ヘク早ク怠納金ヲ取立ル爲メニ設ケタルナリ

第十六 (第十五條)貯蓄所ノ社員ハ貯蓄所ニ對シ財産上ノ權利ヲ有

スレハ一社員ナリトモ貯蓄所ヨリ隨意ニ退社セシムルコトヲ得ス則チ組合ニ入ラサレハ其貯蓄所ニ加入スルコトヲ得サルモ其組合ヨリ出タストモ本條ノ制限ニ因ラサレハ貯蓄所ヨリハ退社セシムルコトヲ得ス

第十七 (第十六條)第十六條ヨリ第二十六條マテハ貯蓄所ノ管理法ヲ定メタルナリ

第十六條及ヒ其他ノ法律ニ於テ社長ハ選舉ニ因テ定ムルモノカ又ハ他ノ方法ヲ以テ命スル者カ又ハ社長ハ皆ガ社員ヨリ成ルカ又ハ一部社員ヨリ成ルカ又社長ハ年限ヲ定メテ命スル者カ又ハ何時ニ

テモ之ヲ免スルコトヲ得ルカ是等ノ事ニ付テハ一切掲載セス

是等ノコトハ貯蓄所ノ異ナルニ隨テ異ナルコトナキヲ得サレハ其規則ニ因テ自カラ定メシムルナリ(各製造場ノ爲メ設ケタル貯蓄所ナレハ製造場所有者カ續テ社長タランコトヲ欲スヘシ團結官署ヨリ設ケシメタル貯蓄所ナレハ其團結ノ代理人社長ト爲ランコトヲ欲スヘシ然ナカラ貯蓄所ノ醫師又ハ保險ノ事ニ違セル人ヲ社長トスルヲ至當トス)

第十八 (第十八條)社員ト社長トノ關係及ヒ社長ノ代理權ヲ明カニ示シタルモノナリ(第五條一項十六條一項十七條二項ヲ參看スヘシ)社長ハ規則ニ因テ與ヘタル權限ニ從テ貯蓄所ヲ代理スルノ權アリ

第十九 (第十九條) 委員ヲ設クルノ趣意ハ(貯蓄所ニハ必ス之ヲ設クヘキトスル者ニ非ス) 委員ハ社員ノ信用ヲ得タルモノニシテ社長ノ事務ヲ監督スルモノナリ其趣意ニ背カシメサル爲メニ全員會ニ於テ委員ヲ選ハシメ且委員ハ社長ノ事務ヲ監督スルモノナリト定メタルナリ然シナカラ社長ノ事務ノ委任ヲ受クルモノニ非ス若シ其事務ノ委任ヲ受クルハ則チ社長ト異ナルヲナケレハナリ又全員會ノ權ヲ委任セラレタル者ニ非ス若シ委任セラル、ハ則チ全員會ヲ要セサレハナリ

第二十 第二十條ハ全員會ノ事ヲ定メタルモノニシテ社員カ貯蓄所ノ事ニ關シテ自カラ管理スルヲ得セシムル趣意ナリ

第二十一 (第二十一條) 貯蓄所ハ利益ヲ得ルカ爲メニ設クル者ニ非

スシテ特ニ救助ヲ爲ス爲メノ者ナレハ各社員ノ入金高ノ多少ニ拘ハラズ都テ丁年者ニシテ公權ヲ有スル者ハ同等ノ投票權ヲ有スルヲハ貯蓄所ヲ設クルノ趣意ニ適ヒタルモノナリ代理者ヲシテ投票ヲ爲サシムルヲハ實驗ニ因レハ屢々弊害アレハ之ヲ禁シタルナリ(弊害トハ實際僅少ナル能辯者ニシテ數人ノ代理ヲ爲シ全員會ニテ投票ノ多數ヲ得ルヲアリ)

第二項ハ社員ノ數多クシテ全員會ニ實際召集スルヲ能ハサル場合ノ爲メ設ケタルナリ

第二十二 (第二十三條) 隨意ニ加入スヘキヲ得ル貯蓄所ハ社員ノ決議(第二十八條)又ハ官署ノ命令ニ因テ(第二十九條) 解社スルヲ得然レモ必ス加入スヘキ義務ヲ有スル貯蓄所ハ其解社ハ社員ノ

隨意ニ任カスルコトヲ得ス故ニ社員カ其義務ヲ怠リタルハ他人之
レニ代テ其義務ヲ盡ス可キ方法ナカル可カラス

故ニ第二十三條ニ其方法ヲ定ムルナリ(義務トハ全員會ニテ決ス
ルコト社長又ハ委員ヲ選フ類)

第二十三 (イ)(第二十五條第二十六條)第八ノ(ホ)ニ於テ已ニ言ヒ
タルカ如ク政府ノ官署ニ於テ其貯蓄所ヲ許可スルハニ維持力ヲ檢
査スルコトヲ爲サス其代リニ社員自カラ検査スルコトヲ得ヘキ方法ヲ
定メサル可カラス故ニ第二十五條ニ於テ五年毎ニ検査スヘキ方法
ヲ定メタルナリ

然シナカラ社員自カラ其検査ヲ爲スコノ力ヲ有スルコトハ甚タ稀ナ
レハ鑑定人ヲシテ検査セシムヘシト定メタルナリ其鑑定人ハ貯蓄

所ノ負債ト收入高ノ概畧ヲ検査スヘキ者ニシテ則平均表ノ二種ト
ナルモノナリ其検査ハ假令法律ニ定ムルコトナクモ貯蓄所ヲ維持ス
ルニハ自カラナカル可カラサルモノナリ理由書ニハ此ノ如キ検査
ハ固ト貯蓄所ノ表ナキカ故ニ概畧ニスヘキト定メタリ然レモ其
概畧ハ恐ラクハ何レノ貯蓄所ニモ適當スルモノニ非サルヘシ
理由書ニハ仍ホ左ノ如ク云ヘリ
貯蓄所ノ維持力ノ概略ハ検査ノ外ニハ之ヲ知ルコト能ハス
又検査ハ貯蓄所ノ管理ニ關係セサル公平ナル人ニ因テ之ヲ爲スヘ
シ草案ハ如此キ人ハ其業ニ達スルヨリ外ノ性質ヲ望マス其他法
律ニ定メタル検査ヲ委任スル至當ノ人ヲ求ムルコトハ全ク社長ノ意
ニ任カセリ

若シ其社長ニ任カセストセハ止タ二ノ法アルノミ或ハ鑑定人タルヘキ人ノ範圍ヲ明カニ定ムルカ或ハ鑑定人ト認ムルニハ其人ヲ先ツ試験スヘキカニアリ

第一ノ法ハ實際之ヲ行フコトヲ得ス第二ノ法ハ當時專ラ營業ニ關スル規則ニ於テ試験等ヲ爲サル趣意ト抵觸スヘク又政府ニ重キ責任ヲ負ハシムルコトアラン其他試験ハ止タ技藝ニ達スルヤ否ハ能ク知ルコトヲ得レモ其職業ヲ爲スニ真心ヲ以テ爲スヤ否ハ知ルコト能ハサレハ(真心ハ鑑定ニハ最も緊要ナルモノトス)之ヲ以テ確正トスルコトヲ得サルヘシ検査ノ爲メニハ草案中更ニ其詳細ヲ定メス何トナレハ鑑定人ノ真心ヨリ出ツル判断ヲ規則ヲ以テ束縛スルコトヲ欲セサレハナリ故ニ草案ニハ唯タ其鑑定シタルコトヲ一定ノ書式ニ作

ラシメテ官署又ハ關係人公衆ニ示シ其貯蓄所ノ維持力ヲ知ラシメ及ヒ他ノ貯蓄所ト比較シ易カラシムルノミ

(ロ)何年毎ニ検査ヲ爲サシムルヤノ問題ハ左ノ理由ヲ以テ決定セリ
小ナル貯蓄所ニ於テハ毎年ノ精算ハ大ナル差アル者ニシテ數年ヲ經タル後ニ非サレハ平均ノ高ヲ知ルコト能ハス故ニ數年ヲ經サル前ノ高ハ誤謬アリ易クシテ貯蓄所ノ財産總額ヲ確定スルコト能ハサレハナリ

(ハ)第二十六條ニ從ヘハ負債ト收入高トノ不平均ハ五年内ニ其權衡ヲ得セシムヘシトアリ理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ
五年内ニ不平均ヲ正スコトハ時トシテ甚タ難キコトハ言フコトヲ俟タス何トナレハ社員ハ貯蓄所ヨリ離レテ其義務ヲ免カル、コトヲ得レハ

ナリ

其不平均ニ至タラシメサル方法ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルヲ得ス
止タ確實ニ貯蓄所ヲ管理スレハ自然ニ之ヲ免カル、ノミ其方法ハ
準備金ヲ設クルノ義務ヲ貯蓄所ニ負ハシムルヲ最上ノ策トスレモ
之ヲ負ハシムルヲ能ハサル所以ハ準備金ノ設置及ヒ價額ニ付キ普
通ノ規則ヲ定ムルヲ能ハサレハナリ

第二十四 (第二十七條)理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ

貯蓄所ノ設置方ヲ改良スルニハ其關係ヲ明カニ知ルニ非サレハ之
ヲ爲スコヲ得ス之ヲ明カニスルニハ統計表ニ因ルニ非サルヨリ他
ナシ

故ニ第二十七條ニハ上等行政官ニ其明細書ヲ差出サシムルナリ監

督官ノ爲メニハ明細書ハ格別有用ノモノニ非サレハ之ヲ差出サシ
メス精算書ハ甚タ必用ナルモノナレハ之ヲ差出サシムルナリ

第二十五 (第二十八條)已ニ救助ヲ要スルカ又ハ救助ヲ求メントス
ル社員ハ其貯蓄所ノ維持ニ付キ最モ關係ヲ有スレハ是等ノ者ヲ防
護スルカ爲メ隨意ニ解社ヲ決スルヲ難クセンカ爲メ投票ノ數ヲ
多ク定メタルナリ

理由書ニハ左ノ如ク云ヘリ

社員ノ隨意ニ非ス地方規則ヲ以テ設ケタル貯蓄所ナレハ之ヲ解社
スルモ亦隨意ニ任カス可カラズ此貯蓄所ノ解社ハ初メ之ヲ設ケ
タル時ノ規則ヲ廢スルト否トニ關係スルナリ

第二十六 (第二十九條)法律ノ要件ニ適ヒタル貯蓄所ト雖モ法律ノ

ノイハツス氏説明下

目的ヲ達セシムルニハ社員之ヲ拒ムト雖モ貯蓄所ヲ閉サシムルヲ得ヘシ故ニ第二十九條ヲ設ケタルナリ此條ニ從ヘハ一定ノ場合ニ於テハ閉スコトヲ得ルト記シテ閉スヘシト記セス

第二十七 (第三十一條二項)此條ニ從ヘハ止タ閉サスカ(第二十九條)又ハ解社スル(第二十八條)前ニ貯蓄所ヨリ救助スヘキ金高ニ對シテノミ其財産ヨリシテ其責ヲ負フヘシ

其義務ヲ盡シタル後仍ホ財産ニ剩餘アレハ其餘分ハ貯蓄所ノ規則ニ從テ處分スヘシ(第三條八)

第二十八 第三十二條ノ規則ニ因テハ閉サレタルカ又ハ止タ閉サル、コトヲ避ケンカ爲メ解社シタル貯蓄所ニ形容ヲ變シテ再ヒ興シ上等行政官ヨリ閉シタル目的ヲ空シクセンコトヲ防クナリ

第二十九 (第三十三條第三十四條)理由書ハ左ノ如ク言ヘリ

草案ニ從ヘハ貯蓄所ハ法律ニ從ヒ自カラ其事件ヲ管理セシムルナリ其管理ヲ法律ニ背カシメサル爲メ罰則ヲ設ケテ貯蓄所ヲ總轄スル者ニ其責任ヲ負ハシメ且其事務ヲ監督ニ付スルヲ以テ足レリトセリ又其監督ハ法律ニ定メタル事柄ノミニ限ラシメ徒ニ監督官ノ管理ニ立入ルコトヲ防ケリ

第三十 (第三十五條)理由書ハ左ノ如ク云ヘリ貯蓄所ヲ進歩セシムルニハ就中小ナル貯蓄所ヲ相結ヒ付クルニアリ或ハ貯蓄所ノ管理ニ付キ互ニ助合フコトアリ(外國人社員ノ出金ヲ取立或ハ外國人ニ救助金ヲ給シ救助スヘキ場合ヲ監督スル是レナリ)或ハ大ナル貯蓄所ニ合シテ各貯蓄所ヨリシテ救助スヘキ義務ヲ互ニ救助スルコト

アリ法律ハ此ノ如キ合同ヲ勸ムルノ趣意ナリ

第三十一 (第三十六條) 普魯西國法律全書第一篇第二章第六百五十

一條第六百五十二條ニ左ノ如ク云ヘリ

第六百五十一條 相互ニ救助スル趣意ノ寡婦貯蓄所死後貯蓄所嫁

入支度貯蓄所ハ國王ノ許可ナクシテハ設立スルコトヲ得ス

第六百五十二條 社員ノ權利義務ハ政府ヨリ認メタル規則ニ從テ

鑑定スヘシ

千八百三十三年十一月二十九日ノ布告(法律全書百二十一葉)ニ左

ノ如ク定メリ

(イ) 死後貯蓄所トハ社員ノ死シタル時或ル所用ノ爲メ救助金ヲ給

スヘキ貯蓄所ヲ云フナリ

(ロ) 第六百五十一條ノ國王ノ許可ハ將來ハ州長ヨリシテ爲スヘシ

但貯蓄所ノ範圍カ二州以上ニ跨カリタル時ハ内務卿又ハ官吏ノ社

員タル時ハ内務卿及ヒ官吏ノ長官タル卿ヨリシテ許可スヘシ

其他普魯西國ニ於テハ千八百四十五年一月十七日ノ營業規則及ヒ

千八百四十九年二月九日ノ布告(法律全書百五葉)千八百五十四年

四月三日ノ職工救助法律(法律全書百三十八葉)ニ基テ營業上ノ救

助貯蓄所ヲ設ケタリ仍ホ其他礦業ニ關スル職工ノ貯蓄所及ヒ種々

ノ貯蓄所アリ

千八百七十六年四月八日ノ營業規則第八篇ヲ改正シタル法律

第三十二 千八百七十六年四月七日ノ法律ニ付キ已ニ以上ニ説明ヲ

爲シタレハ千八百七十六年四月八日ノ法律ニ付テハ唯々簡略ナル

説明ヲ爲スヲ以テ足レリトセリ此法律ノ趣意ハ已ニ第五ノ(イ)ヨリ(ハ)マテニ言ヘルト左ノ如シ

(イ)團結(第四百四十一條(イ))及ヒ州郡(第四百四十一條ノ(ホ))ハ其編制法ニ定メタル會議ニ因リ(地方規則ニ付テハ營業規則ノ第四百四十二條ヲ見合スヘシ)其區内ノ「ゲセルレ」「ゲヒユルヘ」製造場職人ノ滿十六歳ニ至リタル者(第四百四十一條(イ))ノ爲メ疾病ニ罹リタル者互ニ救助スヘキ貯蓄所ヲ設ケテ之ニ加入セシムル權アリ
(ロ)團結及ヒ州郡ニ於テ貯蓄所ヲ設クルニハ必ス「ゲセルレ」「ゲヒユルヘ」製造場職人ノ爲メ登記貯蓄所ヲ設クヘシ(第四百四十條第四百四十一條(イ))

(ハ)團結及ヒ州郡ニ於テ(イ)ニ掲ケタル權利ヲ以テ(ロ)ノ貯蓄所

ヲ設ケタル者ハ地方規則ニ因テ都テ左ニ掲クル者ヲシテ必ス加入スヘキ義務ヲ免カレシムルコトヲ得

一 他ノ登記貯蓄所ニ加入スル「ゲセルレ」「ゲヒユルヘ」製造場職人

〔第四百四十一條(イ)二項〕

二 連邦ノ法律ニ從ヒ團結ノ命令ニ因リ疾病救助ノ爲メ出金スル者(第四百四十一條ノ(ハ))

但此格外ヲ爲ス所ハ「バエールン」「ユルテンブルヒ」「バーデン」ナリ是等ノ國ニ於テハ其團結ハ「ゲセルレ」等ヨリ團結又ハ其他ノ建築物ニ疾病ノ救助ヲ爲スヘキ爲メ出金セシムルノ權アリ

(ニ)團結又ハ州郡ニ於テ設ケタル登記貯蓄所ニハ第四百四十一條(イ)三項及ヒ第四百四十一條(ハ)ニ掲ケタル特權ヲ與ヘテ其維持力

ヲ増サシメ且加入スル者ヲ勸誘セシメリ

(ホ)(イ)ヨリ(ニ)マテノ規則ハ亦第四百四十一條(ヘ)ニ掲ケタル職人及ヒ營業者ニモ適用スヘシ

(ヘ)又團結及ヒ州郡ハ「ゲセルレ」「ゲヒユル」製造場職人ノ爲メ必ス加入スヘキ義務ヲ有セサル貯蓄所ヲ設クルノ權アリ

(ト)製造場職人ノ内ニハ婦女モ含蓄スル「ハ」下院ノ會議ニ於テ政府ノ委員ヨリ斯ク説明セシヨリ明カナリ

(チ)第四十一條(ハ)ノ一及ヒ三ノ規則ハ之ヲ設ケサレハ必ス加入スヘキ義務ヲ實際ニ盡サシムル「ハ」能ハサルカ爲メノ趣意ヨリ設ケタルナリ

(リ)第四十一條(ハ)ノ二ノ規則ハ普魯西國古來ノ法律ニ從テ一切ノ

營業者ニ其義務ヲ負ハシムル「ハ」能ハサルノ趣意ニ基テ設ケタルナリ
此法律ノ草案ハ一切ノ營業者ニ其義務ヲ負ハシムル「ハ」ニ定メリ然レ「ハ」下院ニ於テ其義務ヲ製造場職人ノミニ限りタリ其理由ハ小ナル手細工人ハ斯クノ如キ出金ヲ爲ス「ハ」甚タ困難ナルモノナリ又小ナル手細工人ト大ナル手細工人トヲ區別スル「ハ」難ク團結官署ニハ間々手細工人ノ加ハ、ル者多ケレハ自カラ出金スル「ハ」ヲ嫌ヒテ其貯蓄所ニ關スル地方規則ヲ發セサルニ至ランノ慮リアレハナリ
(ヌ)製造場職人トハ營業規則第七篇ニ言ヒタルカ如ク製造場内ニ働キヲ爲ス者ノミヲ言フモノニシテ製造場外ニ働キヲ爲ス者ヲ云フニ非ス其事ハ卿ヨリ發シタル規則ニモ明文アリ
(ル)千八百七十六年四月八日ノ法律第二章ハ是迄設ケアリシ貯蓄

所ト此規則ノ貯蓄所トノ關係ヲ定メタルモノナリ

第二章ノ第二項ハ普魯西國ノ爲メニハ最モ必用ナルモノナリ何トナレハ普國ニ於テハ千八百四十五年一月十七日ノ營業規則第四百四十四條第四百四十五條第四百四十九條及ヒ千八百四十九年二月九日ノ布告第五十七條ヨリ第五十九條マテ及ヒ千八百五十四年四月三日ノ營業止救助貯蓄所ノ法律ニ從ヘハ團結官署縣廳ハ「ゲセルレ」ニ「ゲヒユル」ヘ製造場職人並ニ「丁稚」丁稚ハ賃錢ヲ得ルルニ限ルニ必ス加入スヘキ義務ヲ命シ且營業者ニ其職人ノ出金ノ半額ニ至ルマテノ出金ヲ爲スヘキ義務ヲ負ハスヘキ權アレハナリ

是等ノ貯蓄所ハ先ツ第二章ノ一項ニ掲ケタル如ク政府ヨリ規則ヲ發スルマテハ其儘成立ツヘシ以上ニ掲ケタル法律ニ基テ職工ノ爲

メ設ケタル必ス加入スヘキ義務ヲ有スル貯蓄所ハ登記貯蓄所ト同等ノ權ヲ有スレモ千八百八十四年ノ終リマテニ登記貯蓄所ノ許可ヲ得サレハ此權ヲ失フヘシ(第二章三項)此章ノ趣意ハ必ス加入スヘキ義務ヲ有スル貯蓄所ノ已ニ盛大トナリタリシヲ俄カニ廢セシメサルノ意ナリ然レモ此等ノ貯蓄所ヲ登記貯蓄所ニ變スルニハ猶豫ノ時間ヲ與フヘシ何故ナレハ此等ノ貯蓄所ハ疾病ノ爲メノミニ非ス他ノ救助(不具ニ爲リタル者及ヒ寡婦ト爲リタル者ヲ救助スル等)ノ爲メニ設ケタル者モ甚々多ケレハ之ヲ各種ノ貯蓄所ニ分ツコトハ難ケレハナリ

三項ノ趣意ハ登記貯蓄所ニ變更セントスル立法官ノ目的ヲ遅クモ千八百八十五年マテニ達セシメントスルニアルナリ

第九編 地方規則

第四百二十二條 地方規則

團結ノ決議トハ如何ナルモノヲ云フカハ各團結ノ編制法ニ因テ之ヲ定ムヘシ(現今ニハ代言人ヲ出シテ決議セシムルナリ)人民殘ラヌ出會スルカ代言人ヲ出タスカハ各團結ニテ定ムヘシ

第十編 罰則

一 營業ヲ爲ス權利ハ裁判所及ヒ行政上ノ判決ニ因テ之ヲ剝奪スルコトヲ得ス然レモ免許狀ヲ沒收シ(第五十三條)又ハ第十五條二項及ヒ第三十五條ニ從テ營業ヲ禁スルコトハ格別ナリトス

二 第四百十三條第三項ハ千八百七十四年五月七日ノ出版條例ニ因テ廢止セラレタリ

三 第四百十三條第二項ハ千八百六十八年六月八日ノ燒酎稅規則第五十二條第五十三條(獨逸法律全書三百八十四葉)千八百七十七年十月十二日ノ鹽稅規則第十四條(獨逸法律全書四十一葉)ヲ云フナリ第四百十三條二項ノ取消ハ現今行ハル、租稅規則ヲ廢セサル間ハ其效ヲ有スル者ナリ新ナル租稅規則ニテ其取消ヲ設クルコトヲ得ス

四 (第四百十四條)本條一項ノ例ハ普魯西國ニ於テハ商業世話人ヲ罰シ又ハ之ヲ廢スルコトアリ(千八百六十一年七月二十四日ノ商法施行規則普國法律全書四百四十九葉第九章第五條ヲ參看スヘシ)他ノ國ニ於テハ金銀ノ器具ヲ製作スル者及ヒ販賣スル者ヲ法律ニ定メタル金銀ノ分量ヲ含マサルカ爲メ罰スルコトアリ

ノイハツス氏說明下

五 (第五百五十二條ハ營業規則第六條ニ從ヘハ第五百五十六條第五百五十四條ト同シク礦業則チ其職人ニモ亦適用スヘシ下院ニ於テ職人徒黨ノ自由ヲ第五百五十二條ニ掲ケタル者ヨリ他ノ者ニモ與フヘキコトニ付キ甚タシキ議論アリシ但第五百五十二條ノ徒黨ノ自由ハ他ノ法律ヲ犯スコトヲ得ス例ヘハ千八百五十年三月十一日ノ集會及ヒ組合規則即チ普國法律全書二百七十七葉) 獨逸刑法第一百十條第一百十一條第一百十三條ヨリ第一百十六條マテ第三百三十四條第二百四十條第二百四十一條等ナリ

營業ニ關スルカ又ハ營業ニ屬スル規則

(第一) 千八百七十四年五月七日ノ出版條例(獨逸法律全書六十五葉) 則チ千八百七十一年四月十六日ノ獨逸憲法第四條第十六ニ因テ之

ヲ發シタリ

① 一般ノ説明

第一 此法律ハ所謂前以テ豫防スル原則ニ反對シテ現ニ犯シタル^レニ罰スルノ原則ニ因レリ故ニ此法律ハ原稿檢査^ナ保證金^ナ出版免許^ナヲ沒收スル等ノ方法ヲ定メス(第四條)

第二 理由書ニ因レハ出版條例ノ所犯ハ一種特別ノ犯罪ナレハ正犯共犯ニ關スル刑法ノ原則ヲ此犯罪ニ適用スルコトハ十分ナラス又此所爲ヲ犯ス者多ク^レ也(著述者編纂人出版人印刷人並ニ公ケニ廣ムル者) 其正犯ヲ見出スコト難ク及ヒ其他之ニ加ハル、者ノ惡意ヲ證スルコトノ難キカ故ニ止タ一般ノ刑法上ノ原則ニ因テ處分スレハ刑事裁判權ハ此犯罪ニ對シテハ甚タ效力ナキ者トス故ニ一般ノ秩

序ヲ維持スルニハ別ノ規則ヲ設クルヲ要ス理由書ニハ又左ノ如ク云ヘリ、

法律ニ於テ出版物ノ出版ヲ妨ケ又ハ延滞セシムルヲナク出版ニ關スル所犯ニ對シ刑法ヲ適用スヘキ規則ヲ定ムルトモ現ニ犯シタル罪ニ罰スルノ原則ニ背クモノニ非ス

第三 此法律ノ眼目ハ出版物ニ關スル犯罪ニ付キ刑法上ノ責任ヲ刑法ニ從テ之ヲ定メシムルニアリ故ニ出版物ニ罰スヘキ所爲及ヒ如何ナル所爲ヲ確知スルヤ否何人カ正犯又何人カ共犯等ナルヤ否ニ付テハ全ク刑法ニ從テ判定スヘシ(第二十條一項)

第四 實驗ニ徵スレハ前項ニ掲ケタル原則ノミヲ以テハ就中定期出版物(新聞紙雜誌)ニ於テハ不十分ナリトス何トナレハ定期出版物

ニ於テハ其關係犯ニ對シ出版シテ販賣シタル出版物ノ事柄ヲ知ルヤ否ヲ證據立ル「ドヲルス」則惡シキヲ知リナカラト云フ「ナリ」能ハサル「屢々アレハ事柄ノ明カニ罰スヘキ出版物ヲ罰セサル」コアレハナリ

故ニ前項ノ原則ノ外ニ不注意ノ罰則ヲ定メサルヲ得ス而シテ其罰則ハ漸次ニ責任ヲ負フヘキ様ニ定メタルナリ則左ノ如シ

(イ)罰スヘキ所犯アル出版物ヲ出版シテ販賣スル罪ハ正犯ト看做スヘキ著述者ノ外ニ常ニ

一 編輯人(定期出版物)

二 出版人

三 印刷人

ノイハツス氏說明下

四 賣捌人

此等ノ者カ關係スレハ刑法ニ從テ都テ之ヲ正犯共犯ト看做ス可カラサレハ唯々不注意ノ廉ヲ以テ罰スルナリ(此法律ニテ)但此等ノ者ヨリシテ通常ノ注意ヲ爲シタルトテ證スルカ又ハ注意スルト能ハサルトテ證シタルトハ罰セス

(ロ)(イ)ニ掲ケタル者ヨリシテ獨逸國內ニ在ル著述者又ハ投書者(此等ノ者ノ承諾ヲ得テ公告シタルト)又ハ定期出版物ニ非サレハ編纂人又ハ(イ)ニ掲ケタル順序ニ於テ先キタル者ヲ始審裁判所ニ公告スルマテニ證明シタルトハ其罰ヲ免カルヘシ(第二十一條)

⑤各條ノ説明

第五 第一條ハ此法律ニ於テ定メサルカ又ハ許サル制限ハ一切出

板物ニ及ホス可カラサルトテ保證シタルナリ則チ出版ノ自由ナリ

第六 此法律ハ左ニ掲クル者ニ適用スヘシ(第二條)

(イ)凡テ印刷シタル物

(ロ)都テ其他ノ器械又ハ舍密術ヲ以テ一般ニ廣ムル爲メ書類畫圖ノ複寫(文字ノ有無ニ拘ハラズ)音樂ノ譜(歌又ハ訓解アル者)

第七 第六ニ掲ケタル者ヲ一切ノ出版物トス(第二條)此法律中ニ於テ定期出版物ニ付テハ別ニ規則ヲ設ケタリ

定期出版物トハ一月ニ一度又ハ數度期限ヲ定メテ發行スル新聞紙及ヒ雜誌ヲ云フ(第七條)

第八 此法律ニ於テハ如何ナル人ヲ著述者、編纂者及ヒ責任ヲ有スル

編輯人、出版人公ケニ廣ムル者賣捌人印刷人ヲ云フカ此法

ノイハウス氏説明下

律ニ於テハ止タ公ケニ廣ムル者ノ意義ヲ定メタルノミ

(イ)著述者トハ出版物ノ事柄トナル文書畫圖音樂譜ヲ著ハシタル者ヲ云フ

(ロ)編纂人トハ文書畫圖音樂譜ヲ著ハサスシテ之ヲ出版セシムル者ヲ云フ

(ハ)責任ヲ有スル編輯人トハ定期出版物ノ事柄ニ付キ刑法上ノ責任ヲ負フモノヲ云フ

(ニ)出版人トハ書林ノ賣捌キヲ引受クル者ヲ云フ(出版世話人ハ下院ニ於テ此法律ノ出版人ト同様ニ看做スヘク決セリ)

(ホ)公ケニ廣ムル者トハ出版物ヲ本業トシテ賣廣ムルカ又ハ其他公ケニ廣ムル者ヲ云フ(第二十一條一項)

(ヘ)印刷者トハ文書畫圖音樂ノ譜ヲ廣ムル爲メ器械ヲ以テ印刷スル獨立營業者ヲ云フ(故ニ通常印刷所所有主ヲ云フナリ賃錢ヲ得テ活字ヲ組立ツル者ニ非ス)

第九 獨立シテ出版物營業ヲ爲ス權又ハ出版物ヲ出版及ヒ賣捌ク權ハ裁判所及ヒ行政上ノ手續ヲ以テ之ヲ奪フコトヲ得ス(第四條)之カ爲メ千八百六十九年六月二十一日ノ營業規則第四百十三條三項ハ廢止セラレタリ

其他出版物營業ニ付テハ營業規則ヲ適用スヘシ例ハ營業規則第十四條及ヒ第七篇第八篇ノ如シ

印刷物營業トハ出版物ヲ印刷スルコトヲ本業トスル者ヲ云フ(第二條)

第十 此法律第三條ハ出板物ヲ廣ムル意義ヲ刑法第八十五條第一百
條第百八十四條ノ如ク廣メタルナリ

第十一 此法律第六條ハ各出板物ノ犯罪ニ付キ其責ヲ負フヘキ者ノ
一人タリトモ直チニ知リ得ヘキカ爲メニ設ケタルナリ

第十二 第二十條第二十一條ニ付テハ已ニ三四ニ於テ説明シタリ止
タ茲ニ於テ説明スヘキモノハ第二十條ノ二項ニ從ヘハ定期出板物
ノ責任編輯人ハ別段ノ情實アリテ正犯ト看做ス可カラサルニ非サ
レハ正犯トシテ罰スヘシ(例ヘハ編輯人ヨリシテ著述者ヲ證明ス
ルカ如シ)此場合ニ於テハ編輯人ヨリシテ著述者ヲ證明スルモ仍
ホ共犯者トシテ罰スヘキニ非スマヤ如何

第十三 (イ)第二十三條ヨリ第二十六條マテハ警察官又ハ檢事ヨリ

シテ假リニ取押ヲ爲スコヲ云フ

(ロ)第二十七條第二十八條ハ一般ニ取押ヲ爲スコヲ云フ

出板物ヲ假リニ取押フルコニ付テハ別段ノ制限アリ何トナレハ出
板物ハ他ノ物トハ異ナリ且取押ヲ爲サレタル者ニ餘程ノ損害アレ
ハナリ例ヘハ新聞紙ヲ取押ヘ二十四時間ヲ經テ還付スルモハ全ク
其價ヲ失フカ如シ

第十四 印刷物ニ付キ犯シタル所爲ハ刑法第四十一條第四十二條ヲ
見合スヘシ

〔第二〕 千八百十年十一月八日ノ雇人規則(普國法律全書百一葉)

此規則ハ普國法律全書ノ第五篇第十一條ヨリ第百七十六條迄
ヲ廢シ其代リニ之ヲ設ケタルモノナリ千八百四十六年九月二

十九日ノ雇人履歷書布告ニ因テ更ニ之ヲ補充セラレタリ(普
國法律全書四百六十七葉)

此布告ニ因テ設ケタル雇人履歷書ノ印紙料ハ千八百七十二

年二月二十一日ノ法律ニ因テ廢セリ(普國法律全書百六十葉)

第一 雇主ト雇人トノ間ノ關係ハ全ク民法上ノ性質ヲ有スルモノナ
レトモ或ル關係ニ於テハ警察上ノ保護ニ付シタリ則チ左ニ掲クル雇
主ト雇人トノ間ノ争ヒニ付キ警察ノ保護ニ付シタルナリ

(イ)雇人ト爲テ入込ムコト及ヒ雇主ノ家ニ留マルコトニ付キ争ヒノ生
シタルト之ヲ細言スレハ

一 雇主ヨリ雇人ノ入込ムコトヲ拒ムト(第四十七條)

二 雇主ヨリシテ雇人ノ留マルコトヲ拒ムト(第六十條)

三 雇人ヨリ入込ムコトヲ拒ムト(第五十一條)

四 雇人ヨリシテ雇人ノ家ニ留マルコトヲ拒ムト(第六十七條)

(ロ)雇人中ニ或ル義務ニ付キ争ヲ生シタルト(第三十三條第三十
七條第八十三條)

(ハ)入込ノトキニ當リ履歷書ヲ差出スコト(千八百四十六年ノ布告第
四條)及ヒ雇人ノ關係ノ解ケタル後行狀證書ヲ交付スルコトニ付キ
争ヒヲ生シタルト(第七十二條第七十三條其他千八百四十六
年ノ布告第五條)

(イ)(ロ)ノ場合ノ異ナル所ハ(ロ)ノ場合ニ於テハ此規則第七十
二條ト第七十三條ニ於ケルカ如ク實際警察官ニシテ終審ノ決定
ヲ爲シ通常裁判所ニ訴フルコト能ハサレト(イ)ノ場合ニ於テハ訴フ

ノイハウス氏説明下

ルコヲ得ルナリ

(イ)ノ場合ノ互ニ異ナル所ハ雇主ヨリ(イ)ノ三四ノ場合ニシテ雇人ニ對シ警察官ニ申出テ、其裁定ヲ爲シタルハ脅迫法ヲ以テ之ヲ執行スルコヲ得レト雇人ヨリ(イ)ノ一二ノ場合ニシテ雇主ニ對シ警察官ニ申出テ、其裁定ヲ爲シタルハ脅迫法ヲ以テ之ヲ執行スルコヲ得ス此裁定ハ止タ仲裁ノ性質ヲ有スレト若シ雇主ニ於テ警察官ニ對シ雇人ノ入込又ハ留ルコヲ拒ミタルハ(此規則第六十一條ニ云ヘルカ如ク雇主ニ於テ強テ拒ムト)通常裁判所ニ訴フルコヲ得其他雇人ヨリシテ先ツ警察官ノ仲裁ヲ依頼スルコトハ(警察官ニ於テ雇主ノ入レサルコト又ハ暇ヲ出スコトヲ至當トスルモ又セサルモ)雇主ニ對シ損害ノ償ヲ求ムルニハ必ス缺ク可カラ

サル要件ナリトス

千八百四十六年ノ布告第四條ニ定メタル罰ハ千八百五十二年五月十四日ノ法律(法律全書二百四十五葉)ニ從ヒ警察官ヨリ科スヘキモノトス故ニ其判決ニ對シ通常裁判所ニ控訴スルコトヲ得

千八百四十六年ノ布告第五條ニ定メタル罰ハ警察官ノ執行上ノ罰ナレハ之ニ對シテハ止タ警察官ノ命令ニ對スル上訴(行政裁判ノ故障及ヒ訴訟)アルノミ

第二 雇人トハ如何ナル者ヲ云フカハ此規則第一條及ヒ第五十七條

ニ從テモ明カニシテ疑ナキ者ナリ

雇人ノ意義ヲ簡畧ニ言ヘハ家内又ハ耕作ノ卑賤ナル事ノ爲メニ雇入ル、コヲ云フナリ而シテ雇人ハ雇主ノ家屬トナリテ其懲戒及ヒ

ノイハウス氏說明下

家法ニ從フヘシ(千八百七十三年二月二十八日ニ出版シタル「スト
リートホルスト」ノ編纂シタル上等裁判所ノ判決第八十八卷二百十
七葉第一條第五十七條第五十九條第六十條第七十三條第七十六條
第七十七條第七十八條第三百三十六條)

第三 上ハ使ヒ雇人(普國法律全書第二編第五章第七十七條)ハ殆
ハツスヲヒチヤンテン
ント雇人ト異ナルヲナシ則チ警察官ノ相互ノ關係ニ立入ルコニ付
テモ亦同シ

〔第三〕 雇人耕作雇人ノ義務ヲ怠リタルコニ關スル千八百五十四年
四月二十四日ノ法律(法律全書二百十四葉)

第一 此法律ニ因テハ雇人(「ハツスヲヒチヤンテン」ヲ除ク)及ヒ第
二條ニ掲ケタル者ニ對シ強テ命ニ從ハサルカ又抗抵スルカ又ハ法

律ニ掲ケタル理由ナクシテ出ルルハ十五「マルク」ノ罰金又ハ三日
ノ禁獄ニ處スヘシ

第二 此法律第二條ニ掲ケタル雇人、船舶ノ小使、小使、手細工人ヨリ
勞力ヲ止ムルカ又ハ營業者ノ營業ヲ妨クルヲ約束スルカ又ハ他
人ヲ勸メテ約束ニ加ハラシメ因テ營業者又ハ官署ヲシテ或ル所爲
ヲ爲サシムルカ又ハ或ル承諾ヲ爲サシムルルハ一年以下ノ禁獄ニ
處スヘシ

余考フルニ第二ニ掲ケタル規則ハ如何ナル者ニ對シ千八百六十九
年六月二十一日ノ營業規則第五百二十二條ニ因テ廢止セラレタルモ
ノナルヤ第一ニ掲ケタル規則ハ争ヒノアル規則ナリ後來此規則ノ
成立ツヤ否ハ契約ヲ破ルヲ刑法上ノ罰ヲ科スヘキ者ナルヤ否ノ間

ノイハツス氏說明下

題ノ可否ニ關係スル者ナリ

〔第四〕 負債ニ付キ拘留ヲ廢スル千八百六十八年五月二十九日ノ獨

逸法律(獨逸法律全書二百二十七條)勞力賃及ヒ給金ノ取押

(取押ヲ禁スル法律ナリ)ニ關スル千八百六十九年六月二十一

日ノ獨逸法律(獨逸法律全書二百四十二葉)

〔第五〕 鐵道礦業等ニ因テ人ヲ死傷スルキノ損害賠償ニ關スル千八

百七十一年六月七日ノ獨逸法律(獨逸法律全書二百七葉)

第一 此法律ノ趣意ハ或ル營業ニ使用スル人ハ生命健康ノ爲メ甚々

害ヲ受ケ易ク且連邦ノ法律ハ損害ヲ受ケタル者ニ賠償ヲ爲シ又ハ

十分ニ給スル爲メニハ損害ト賠償ト平均ヲ得サルカ爲メニ注意シ

タルモノナリ其不十分ナルトハ一ハ當時成立タル訴訟法ニテ(其

後屢々改正シタリ)ハ損害ヲ檢査シ又ハ其高ヲ評定スル裁判官ノ

見込ヲ制限スルニアリ一ハ民法ニ於テ損害ノ償ヲ求ムル訴ヲ止タ

直チニ(通常)無能力ナル發起人ニ對シテノミ爲サシメ又損害ノ賠

償ヲ求ムル人ノ區域ヲ制限シ且損害ノ償高ヲ少クシテ損害ヲ受ケ

タル者ノ一時又ハ永久働ヲ爲シ能ハサル者又ハ遺族ノ爲メ決シテ

十分ナル償ヲ給セシメサルトニアリ

然レモ一般ノ法律ヲ定メサルコトハ一般ニ損害ノ義務ヲ定ムルコトノ

甚々難キト法律ヲ設クル時間ヲ減スルカ爲メナリ而シテ止タ尤生

命身体ニ害有ルヘキ業ニ使用スル者並ニ其家屬ヨリシテ損害ヲ受

ケタルハ十分ノ償ヲ求ムルコトヲ得ル特別ノ法ヲ設ケタルモノナリ

第二 法律ノ箇條ハ左ノ如シ

ノイハツス氏說明下

(イ)鐵道礦坑石坑製造ノ業ヲ起ス者ハ其業ヲ爲スニ因テ生命健康ヲ害シタル者アルトハ或ル場合ニ因リ其責ヲ負フヘキナリ(第一條第二條)

(ロ)如何ナル損害ニ付キ賠償スヘキヤノ一般ノ規則ヲ定メタリ(第二條)

(ハ)損害ヲ検査シ又ハ其高ヲ評定スルコトニ付キ全ク裁判官ハ法律上ノ證據法ニ束縛セラル、コナシ就中其高ヲ定ムルトハ裁判官ノ意見ニ大ナル自由ヲ與ヘタルナリ(第六條第七條)

第三 損害ヲ賠償スル義務ニ付キ鐵道起業者ト(ニ)ノ(イ)ニ掲ケタル其他ノ起業者ト區別ヲ爲セリ鐵道起業者ノ義務ハ(第一條)礦業起業者等ノ義務(第二條)ニ比スレハ甚タ重シ此理由ハ鐵道ノ業ニ

於テハ當時技藝ノ開進シ豫防方法ノ増加シ且實際ニ練熟スレハ注意ダニ十分ナレハ大ナル不幸ヲ免カルレト礦業ニ於ケル不幸ハ之ニ反シ自然力ニ因テ發スルコト多ケレハ注意ヲ爲ストモ之ヲ避クルコト能ハス又礦業ニ於テハ鐵道ノ業ヨリハ職人ノ勞力ヲ多ク用ユルコトアレハナリ鐵道ノ業ニ於テハ役員ニ於テ規則及ヒ命令ヲ正シク守ルコトヲ緊要トス又礦業ニ於テハ起業人又ハ職人ノ疎忽ニ因リ損害ヲ受ケタル職人ヲ保護スルニアリテ公衆ノ爲メ保護スルニ非ス又礦業起業者ノ義務ハ職人ヲ抱入ル、トノ不注意ノミニ限り之ヲ負ハシムルニアリ又礦業ノ職人ノ勞力ハ監督ノ行届カサルモノナレハ此業ニ付ク者ハ同職人ヨリ損害ヲ受クヘキコトヲ承知シタル者ト看做セリ則チ一人ノ不注意ハ數人ニ大ナル損害ヲ被ラシムルコト

アレハナリ

石坑製造場モ亦以上ノ關係ニ於テハ礦業ニ等シキモノナリ如何ナルモノヲ製造場トスルコトハ茲ニ定メ難クハ全ク裁判官ノ意見ニ任カセルナリ

第四 鐵道ノ内ニハ理由書ニ從ヘハ馬車鐵道モ含蓄スルナリ

〔第六〕 千八百三十八年十二月十二日ノ貯金預所規則(普國法律全

書千八百三十九年第五葉)

第一 此規則ハ團結(第一)及ヒ大ナル團結(第二十一)ニ因テ貯金預リ所ノ設立法ヲ定メタルナリ

第二 團結等ニ因テ貯金預リ所ヲ設ル要件ハ團結ニ於テ一定シタル會計ヲ掌ルト團結ノ代理ニテ貯金預リ所ノ一切ノ義務ヲ負擔スヘ

キトニアリ(第一第二)

第三 其他此規則ハ貯金預リ所ノ金額ヲ確實ニ貸付クルコト及ヒ貯金預リ所ハ富人ノ銀行トナラス貧人ノ貯ヘタル金額ヲ利息ヲ得テ預クル所ト爲ルヘク注目シタルナリ

第四 實際ニ於テハ平穩(戰爭又ハ騰貴スヘキ恐レアル所)ハ預ケ人ヨリ取戻ヲ爲セハナリ)ニシテ物價騰貴スヘキ恐レナキ所ニ貯蓄所ノ財産ノ預リタル金額ノ百ニ付キ百十アル所ハ其餘分金ヲ(十ナリ)團結等ノ公ケノ目的ニ費用スルコトヲ得ヘキ者トセリ(第七)

第五 貯金預リ所ハ貧民ノ爲メニハ大ナル利益トナル者ナリ

〔第七〕 千八百六十八年七月四日ノ共益組合及耕作組合ノ民法上ノ關係ヲ定ムル法律(獨逸法律全書四百十五葉)

ノイハウス氏説明下

此法律ニ付テハ千八百七十一年五月十九日ニ説明法ヲ發セリ

(獨逸法律全書百一葉)

第一 此組合ハ獨逸ニテ始メテ設ケタル者ニシテ已ニ退隱シタル裁判官「シユルチエ」(通常ハ「シユルチエデーリー」チユト稱セリ)ナル人之ヲ設ケリ之ヲ設ケル所ノ見込ハ左ノ如キ者ニアリタリ

一人ノ資本ニテ營業ヲ盛大ニスルニ不足ナル所ハ信用ヲ得サルヘカラス併シナカラ其信用ハ一人ニテハ得ヘキモノニ非ス數人ノ力ニ因テ期日ヲ誤ラス返金スヘキノ責ヲ負擔シ其責ハ各人ノ全財産ヲ以テ負擔スヘキ所ニ限り信用ヲ得ル者ナリトセリ

社員各獨立シテ己レノ全財産ヲ以テ債主ニ對シ組合ニテ負擔シタル一切ノ義務ヲ擔任スル組合ヲ之ヲ「ゲノツセンシヤフト」ト云フ

千八百五十年代(「シユルチエ」カ始メ起シタル所)ニ始メテ起リタル「ゲノツセンシヤフト」ハ最初ハ全ク民法上ノ相互ノ契約(公法ニ非サル)ヲ普國ニテ始メテ公法ニセリ)ニ基テ設ケタルモノナリ併シナカラ其效能著シク顯ハレタルニ因リ第一ニ普魯西國ニ於テ法律ヲ發シ其組合ノ本体ニ適合シ且之ヲ勸ムル編制法ヲ定メタリ然ル後千八百六十八年七月四日ノ法律ヲ以テ北獨逸連邦ニ及ホシ其後獨逸國ニ及ホセリ

第二 「ゲノツセンシヤフト」トノ意義ハ千八百六十八年七月四日ノ法律第一條ニ定メリ其性質ハ組合ノ義務ノ爲メ社員獨立シテ其責ヲ負擔スルニアリ是レ他ノ組合ト一種特別ニ異ナルモノナリ(第十二條)社ヲ離レタル社員ニ付テハ第三十八條第三十九條ヲ見合

ノイハウス氏説明下

スヘシ

第三 「ゲノツセンシヤフト」ハ第二條以下ニ掲ケタル要件ニ從ヘハ登記「ゲノツセンシヤフト」ノ權利ヲ得ルナリ

第四 「ゲノツセンシヤフト」ノ此規則ノ要件ニ適スルヤ否及ヒ「ゲノツセンシヤフト」登記簿ニ登記シタルヤ否ハ商法裁判所ニ於テ之ヲ判決スヘシ登記簿ニ登記シタル所ヨリ始メテ登記「ゲノツセンシヤフト」ノ權利ヲ得ルナリ(第四條第五條)

第五 登記「ゲノツセンシヤフト」ノ權利ハ就中左ノ如シ

(イ)「ゲノツセンシヤフト」ノ維持及ヒ權利義務ハ社員ノ退社入社ニ因テハ變更セス(第十二條二項第三十八條一項)

(ロ)組 合ニテ權利ヲ得ヘキコ(第十一條)

(ハ)社長ニ因テ代理セラレ、コ(第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十四條)

(ニ)其他ノ權利(第十三條第十五條等)

第六 「ゲノツセンシヤフト」ノ特權ニ對シ上等行政官ノ申立ニ因リ裁判所ニテ判決シタル上脅迫シテ其組合ヲ解クコヲ得此場合ハ「ゲノツセンシヤフト」ニ於テ法律ノ要件ニ從ハサル所之ヲ行フナリ(第三十五條)

第七 「ゲノツセンシヤフト」ノ效能ハ通常其社員ノ規則ニ從テ資本ヲ聚ムルニアリ此資本ハ「ゲノツセンシヤフト」ノ負債ニ充ル準備金ト爲ルナリ

千八百七十九年ニシユルチエデーリツツノ報告ニ從ヘハ該年内

ニ貸金組合ノ數カ八百九十九アリ此組合ハ登記セラレタルモノニ
シテ社員ノ數ハ四十五万九千三十三人アリ千八百七十九年間ニ貸
付ケ及ヒ返金ヲ延期セシメタル者ノ總數ハ十三億九千八百十二万
八百三十「マルク」ナリ

社員ノ資本高ハ一億九十九万六千二百四十八「マルク」社ノ準備金
ハ千五百一十一万七千八百二「マルク」故ニ此ニツテ合算スレハ一億
千六百一十一万四千五十「マルク」ノ高アリ

此金高ノ外ニ他人ノ金額ヲ使用セリ

(イ)一己私人ヨリシテ借りタル總高ハ二億七百万六千九十「マ
ルク」

(ロ)銀行及ヒ其他組合ヨリ借用高ハ千三百六十二万千八百六十四

「マルク」

(ハ)貯金預ケ高ハ一億二千六百五十二万七千五百二十「マルク」故
ニ他人ノ金額ヲ總計スレハ三億四千七百十六万五千四百七十五
「マルク」ト爲ル之レニ因テ觀レハ自己ノ所有金ハ他人ノ金高ノ百
ニ付キ三三〇四四ニ當ル

消費物組合ハ千八百七十九年ニ登記セラレタル者ノ數ハ百九十一
アリ其社員ハ十三万七千七百七十七人アリ社員ニ賣リタル物品ノ價ハ
二千八百七十七万二千九百八十八「マルク」アリ社員ノ資本ハ三百
二十万四千六百七十七「マルク」アリ
社ノ準備金ハ九十五万四千七百二十三「マルク」アリ
借入金ハ二百四十七万六千五百二「マルク」アリ

信用ヲ以テ物品ヲ借リタル高ハ七十二万二千三百九十マルクナ

警察法

第一 警察ハ國王ノ名ヲ以テ之ヲ掌ルヘシ(千八百七十二年十二月十三日ノ郡規則第四十六葉及ヒ千八百五十年三月十一日ノ警察規則第一條)

第二 普國法律全書第二篇第十七章第十條ニ於テ警察事務ヲ左ノ如ク定メリ

公ケノ安寧及ヒ秩序ヲ維持シ且公眾又ハ各人ノ妨害ヲ防禦スルニ必用ナル處分ヲ爲スヲ以テ警察ノ要務トス

第三 警察ノ事務ヲ盡ク網羅スルコト能ハスト雖モ其大要ヲ掲ケタル

法律ハ左ノ如キモノナリ

- (イ)千八百十七年十月二十三日ノ普魯西王國ニ於ケル縣廳ノ事務ニ關スル指令第二條第三條(普國法律全書二百四十八葉)
- (ロ)千八百五十年三月十一日ノ警察規則第二條(普國法律全書二百六十五葉)
- (ハ)千八百七十二年二月十九日ノ郡規則第五十九條

第四 警察ヲ分テ安寧警察公益警察トシ又全國警察地方警察トス

全國警察地方警察ノ意義ハ普國ニ於テハ明カニ法律上ニ之ヲ定メタリ則チ千八百八年十二月二十六日ノ州警察及ヒ會計官署ノ設立改正布告ノ第三十四條ニ掲ケタリ(千八百十七年十月二十三日ノ指令附録)

全國警察ハ國家及ヒ各人民ノ安寧公益ヲ總括スレ_レ地方警察ハ止
 タ各團結及ヒ地方限リノ安寧公益ヲ總括スルナリ又或ル事件ノ性
 質ニ因リ一般ニ係ル處置ヲ要スルモノハ地方警察ニ擔任セシメス
 シテ全國警察ニ擔任セシムヘシ(例ヘハ河川警察航船警察港口警
 察)(千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第百十五葉一項千
 八百八十年七月二十六日ノ行政編制法第七十四條)

安寧警察及ヒ公益警察ハ相混同スレハ其意義ヲ定ムルコトハ甚々難
 シ併シナカラ實際ニ於テハ安寧警察ハ公ケノ安寧及ヒ秩序ヲ維持
 スル者ニシテ(千八百十七年十月二十三日ノ指令第二條第二)公ケ
 ノ損害ヲ防キ去リ公益警察ハ公衆ノ利益ヲ進ムルヲ目的トシタル
 者トセリ安寧警察ノ字義ハ千八百七十年七月二十六日ノ行政編制

法第七十九條一項ニ始メテ之ヲ定メタリ此字義ニ付テハ將來甚々
 疑ヲ生スルモノナラン乎

第五 全國警察ハ卿ノ總括ヲ以テ州長縣令(千八百八十年七月二十
 六日行政編制法第三十八條)及ヒ其他委任ヲ受ケタル官署ニテ之
 ヲ掌ルヘシ

地方警察ハ地方ノ警察官署ニ於テ之ヲ掌ル東六州ニ於テハ(郡規
 則ノ行ハル、所ナリ其他ハ政府ニテ警察ヲ掌レリ)邑郷ニテハ
 邑長郷長ニテ之ヲ掌ルヘシ(千八百五十三年五月三十日ノ邑規則
ビルドアップシステム
 第六十二條ニ從ヘハ邑長郷長ハ獨立シテ之ヲ掌ル者ニシテ邑官郷
 官ノ參ハルコトヲ要セス)此場合ニ於テハ警察官署ノ名義ヲ以テ掌
 ルナリ

但千八百五十年四月十一日ノ警察規則第二條ニ從ヒ内務卿ヨリシテ別段ノ官吏ヲシテ掌トヲシムルトキハ王國警察長又ハ王國警察官ニ委任スルナリ(警察長及ヒ警察官ハ權限ニ付キ差等ナシ止タ其官吏ノ等級ノ異ナルノミ)

邑郷ニ非サル所ニ於テハ區長ニテ警察事件ヲ掌レリ(千八百七十二年十二月十三日郡規則第四十六條ヨリ第七十三條マテ)但千八百五十年四月十一日ノ法律第二條ヲ適用シタルキハ此限ニ在ラス

第六 警察官署ノ權限ハ一般ノ法律ニ從ヒ規則ヲ設ケ及ヒ之ヲ執行スル權アリ

規則ヲ設ケル權トハ其管轄内ニ行フヘキ警察規則ヲ發シ之ニ從ハサル者ノ爲メ罰金ヲ定ムルコトヲ得ルナリ執行スル權トハ法律及ヒ

警察規則ヲ實行スルコトヲ云フナリ

(A)以上ニ云フ所ノ警察規則ヲ發スル權ハ左ノ者ニ屬スルナリ

一 法律ニ於テ中央官署ト掲ケタル所及ヒ千八百八十年七月二十六日ノ行政編制法第七十二條二項ニ掲ケタル場合ニ於テハ全國内又ハ其一部ニ卿ヨリ警察規則ヲ發シ百「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第七十二條)

二 州長ハ州輔佐官ノ承諾ヲ以テ(行政編制法第七十五條)數縣ニ跨カル郡内又ハ數縣内又ハ全州内ニ警察規則ヲ發シ六十「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第七十三條)

三 縣令ハ縣輔佐官ノ承諾ヲ以テ數郡内又ハ全縣内ニ警察規則ヲ發シ五十「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第七十三

條)

四 郡長ハ郡總代ノ承諾ヲ以テ數區内又ハ全郡内ニ警察規則ヲ發シ三十「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第七十八條)

五 區長ハ區總代ノ承諾ヲ以テ數村里内又ハ全區内ニ警察規則ヲ發シ九「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(郡規則第六十二條)

六 邑郷ニ於ケル地方警察官ハ安寧警察ノ事件ノ外ハ郷邑官ノ承諾ヲ以テシ(行政編制法第七十九條)又耕作山林ニ係ル事件ナレハ其承諾ノ外ニ郷邑會ノ承諾ヲ以テ(千八百五十年四月十一日警察規則第七條)警察規則ヲ發シ郷ニ於テハ三十「マルク」以下ノ罰金

ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第八十條)邑ニ於テハ九「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(警察規則第五條)但縣令ノ許可ヲ得テ三十「マルク」以下ノ罰金ヲ定ムルコトヲ得(行政編制法第八十條)

第五ノ區總代ノ承諾ハ郡總代ノ決議ニ因リテ(郡規則第六十二條)及ヒ千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第五十八條)第六ノ郷邑官ノ承諾ハ縣輔佐官ノ決議ニ因テ(行政編制法第七十九條)之ヲ補フコトヲ得

第二第三第六ノ官署ハ至急ヲ要スル場合ニ於テハ州輔佐官縣輔佐官郷邑官ノ承諾ヲ得ル前ニ警察規則ヲ發スルコトヲ得併シナカラニケ月内ニ州輔佐官縣輔佐官ノ承諾ヲ得サルハ及ヒ四週間内ニ郷邑官ノ承諾ヲ得サルハ其警察規則ハ之ヲ發シタル官署ヨリ之ヲ無

効ト爲スヘシ(行政編制法第七十五條第七十九條)

(B) 縣令州長商務卿ヨリシテ河川警察航船警察港口警察ニ付警察規則ヲ發スル特權ニ付テハ行政編制法第七十四條ヲ見合スヘシ

(C) 警察規則ヲ發スルニ付其要件ハ左ノ如シ

一 法律及ヒ上級官署ノ警察規則ニ觸ル、可カラサルコトハ勿論言ヲ俟タス且警察規則第十五條ニ明ニ掲ケリ

二 警察規則ハ一定ノ方法ニ從テ之ヲ發シ及ヒ公告スヘシ 卿州長縣令ヨリ發スル警察規則ノ方法ハ行政編制法第七十六條ニ定メリ 其他ノ者ヨリ發スル警察規則ノ方法ハ縣令ヨリシテ之ヲ定ムヘシ

(行政編制法第八十條二項)

(D) 左ニ掲クル官吏ハ警察規則ヲ無効ト爲スノ權アリ(行政編制

法第八十一條

一 縣令ハ至急ヲ要スル場合ノ外ハ縣輔佐官ノ承諾ヲ以テ地方及ヒ郡ノ警察規則ヲ無効ト爲スコトヲ得

二 内務卿ハ一切ノ警察規則ヲ無効トスルノ權アリ但川河航船警察規則ハ商務卿ヨリシテ之ヲ無効トスルノ權アリ

(E) 裁判所ニ於テハ警察規則ノ必要ナルヤ否又ハ便利ナルヤ否ヲ檢査ス可カラス止テ法律ニ適ヒタルヤ否ヲ檢査スヘシ(警察規則

第十七條

(F) 警察規則中ニハ止テ犯則者ニ對シ罰金ヲ定ムルノミニシテ拘留ヲ定ムルコトヲ得ス罰金ヲ拘留ニ換フルコトハ之ヲ科スルニ當リ換フルコトヲ得ルノミ

第七 罰ヲ科スル權ハ警察官ニハ附與セサルモノナリ但千八百五十二年五月十四日ノ法律ニ從テ假リニ罰ヲ科スル權アルナリ(普國法律全書二百四十五葉)而シテ止々假リニ違警罪ヲ科スルコトヲ得ルナリ(獨逸刑法第一條)

第八 警察官ノ脅迫權ハ行政權限法第六十八條ト第七十條ニ定メリ

(A)脅迫權ヲ以テ執行ノ爲メノ罰權ト稱スル者屢々アリ(其罰ヲ執行ノ爲メノ罰ト稱ス)併シナカラ此稱ニ付テハ注目スヘキハ警察官ノ脅迫權ハ真正ノ罰權ニ非ス或ル情況ヲ改正シ又ハ除去スルカ爲メニ強テ一定ノ所爲ヲ爲サシメサラシムル爲メノ方法ナリ

(B)脅迫權ヲ實用スル爲メノ原則ハ左ノ如シ

一 執行罰ハ止々法律ニ掲ケサルカ又ハ一般ニ罰ヲ定メサル所爲

又ハ不所爲ニ對シテノミニ之ヲ定ムルコトヲ得ルノミ(千八百七十

八年四月十二日上等行政裁判所判決)(千八百七十九年四月九日ノ

出板判決録第五卷二百七十八葉)内務行政布達全書百二十五葉

二 執行罰ハ罰ヲ定メ強テ爲サシムヘキ所爲ヲ已ニ爲シタルカ又

ハ爲スコ能ハサルカ爲メニ爲サシムヘカラサルハ之ヲ科スルコ

ト得ス(千八百七十七年一月三十一日及ヒ六月九日ノ上等行政裁

判所判決録第二卷三百八十二葉四百十三葉)

三 執行罰ハ之ヲ定メタルトニ強テ盡サシムヘキ義務ノ已ニ消滅

シタルトハ之ヲ科スルコトヲ得ス例ヘハ雇人ノ理由ナクシテ雇主ト

出タルト還ラシメンカ爲メニ罰ヲ定メタル後其抱入契約ノ滿期ト

爲ルカ又ハ其他法律ニ從テ其關係ノ解ケタルトハ其罰ヲ科スルコ

ヲ得サルノ類

四 法律ニ掲クルカ又ハ一般ニ罰スヘキ所爲ヲ爲スカ又ハ爲スヘキヲ爲サ、ルニ因テ生セシメタル結果ヲ除ク爲メ更ニ執行罰ヲ定ムルモ第一ノ原則ニ背クモノニ非ス(千八百七十九年四月九日 上等行政裁判所判決判決録第五卷二百七十八葉)

五 脅迫法ヲ同時ニ數箇以上使用スルコトヲ得ス例ヘハ他人ニ因テ爲スヘキ所爲ヲ爲サシメタル上罰金ヲ定ムルコトヲ得サルノ類(一ノミヲ科スヘシ)

六 強テ一回爲スヘキコトヲ爲サシムル爲メニハ同一ノ命令中止タ期限ヲ定メテ之ヲ爲スヘキコトヲ命シ其期限ヲ經過スルモ之ヲ爲ササルハ止ターノ罰金ヲ科スヘキコトヲ定ムヘシ故ニ其定メタル罰

ヲ科シ且其罰ノ効力ヲ待ツコトナク數箇ノ罰金ヲ定ムルコトハ之ヲ禁ス(千八百八十一年一月二十六日ニ「メツテン」ナル人ノ原告人ヨリ「ドイツツ」ステハウセン」區ノ區長ニ對スル訴訟ニ付キ上等行政

裁判所ノ判決録第一卷三百四十葉ヲ見ルヘシ)

七 脅迫法ヲ行フニハ命令書ヲ作テ本人ニ交付スヘシ調書ヲ作テ言渡スヘカラス(千八百七十八年三月二十七日ノ上等行政裁判所判決録第四卷三百九十四葉行政編制法第六十八條ヲ見合スヘシ)

第九 警察ノ命令ニ對スル上訴

一 其上訴ハ左ノ如シ

(イ)法律ニ於テ別ニ定メナケレハ毎ニ一等上級ノ官署ニ故障ヲ申立ルコトヲ得

ノイハウズ氏説明下

(ロ)明カニ法律ニ定メタル場合ニ於テハ行政裁判所ニ訴フルコトヲ得(千八百七十五年七月三日ノ法律第三條普國法律全書三百七十五葉)

(ハ)千八百七十二年五月十一日ノ警察官ノ命令ニ對シ通常裁判所ニ訴フルコトヲ得ル規則ニ因テ定メタル場合ニ於テハ通常裁判所ニ訴フルコトヲ得(普國法律全書百九十二葉)

是等ノ場合ニ於ケル故障又ハ訴ノ外ニ一上等ノ官署ヨリ一等級ノ官署ノ命令ヲ(別ニ法律ニ定メサルモ限ル)職務上ヨリ無効ト爲シ又ハ指令ヲ爲スヲ得ルハ是レ必竟監督上ヨリ爲スモノナリ(千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第三十九條此條ハ別ニ新タナル法ヲ設ケタルニ非ス止テ監督權ヲ説明シタルナリ)

二 行政編制法第四篇ノ警察官ノ命令トハ如何ナル者ヲ云フカ畢竟千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第四篇ノ警察官ノ命令ニ異ナラス

其他警察官ノ命令トハ一人(入トハ法律上入ト看做スヘキ者)又ハ數人ニ爲スヘキ又ハ爲スヘカラサル一定ノ義務ヲ命スルヲ云フナリ(或ハ多クノ義務ヲ負ハシムルコトアリ)

但此意義ハ之レノミナラス又其義務ハ公法ニ基テ一人ヨリ數人則チ國家ニ對シテ爲スヘキ義務ナルヘシ(此意義ニ對シテハ異說ヲ述フル者多クアリ)

故ニ行政編制法第四章ノ警察官ノ命令トハ左ニ掲クル者ヲ云フニ非ラス(命令トハ止タ人ニ義務ヲ命スルコトヲ云フノミ)

(イ)都テ一定ノ人ヲ指サス一般ニ發シタル警察官ノ命令例ヘハ警察規則ノ如キナリ

(ロ)上級ノ警察官署ヨリ下級ノ警察官署ニ對シ發シタル指令諭達又ハ臨時處分法又ハ一切懲戒ニ係ル命令

(ハ)警察官署ヨリシテ警察上ノ申立ヲ拒ムヘキ命令(千八百七十八年一月二十六日上等行政裁判所判決判決録第三卷二百十四葉)

(ニ)千八百五十二年二月十五日ノ法律ニ從ヒ假リニ罰金ヲ科スル命令等

三 行政編制法第四篇ニ掲クル故障ハ範圍至テ廣クシテ警察官ノ命令ノ法律ニ背クコトニ對シテ申立ルコトヲ得ルノミナラス又其命令ノ必用ナラサルカ便利ニナラサルカ或ハ條理ニ背キタルトニ對シ

テモ之ヲ申立ルコトヲ得

然レモ此四篇ノ行政裁判ニ於ケル訴ハ止タ其警察官ノ命令ノ法律ニ背キタルト及ヒ其命令ヲ發スヘキ事柄ノナキトニ限り之ヲ起スコトヲ得ルノミ

又訴ハ警察官ノ命令ニ對シ故障ヲ爲ス代リニ起スコトヲ得然レモ一度故障ヲ申立タルトハ止タ最終ノ故障決定ニ對シテ再ヒ故障ヲ爲スコトヲ得レモ中間ノ決定ニ對シテハ之ヲ爲スコトヲ得ス(其決定トハ一等上級ノ官署ヨリ下級ノ警察官ノ命令ニ對スル故障ヲ決定スルヲ云フナリ行政編制法第六十三條ヲ見合スヘシ)

四 故障ト訴トハ行政編制法第四篇ニ從テ其内ノ一ヲ選テ爲スコトヲ得レモ法律ニ於テ別ニ定メタルトハ能ハス(行政編制法第六十

三條

別ニ定ムルトハ左ノ如シ

(イ)行政編制法第六十九條第二項ニ從ヘハ脅迫法ヲ執行スルトニ對シテハ止タ故障ヲ申立ルコトヲ得ルノミ

(ロ)千八百七十六年七月二十六日ノ行政權限法第九十一條一項及ヒ第百五十五條ノ場合ニ於テハ止タ行政裁判所ニ訴ルトヲ得ルノミ併シナカラ此規則ハ之ヲ主張スルノ理由ヲ有セス故ニ未タ法律トナラサル新行政權限法ニ於テハ殆ト此規則ヲ廢セリ

五 警察官ノ命令ニ對シテ通常裁判所ニ訴フルト

千八百七十二年五月十一日ノ法律(普國法律全書百九十二條)ハ警察官ノ命令ニ因テ人民ノ私有權ヲ害シタル場合ニ訴ヲ爲スヘキ權

ヲ與ヘタルナリ其場合ハ第二條ト第四條トニアリ然レモ第二條ノ場合ハ行政編制法第六十三條ノ末ノ二項ニ因テ廢シタレハ止タ第四條ノ場合ニ限リ訴ヲ爲スコトヲ得ルノミ

調藥店及ヒ調藥師

第一 千八百六十九年六月二十一日ノ營業規則第六條ニ從ヘハ此規則ハ調藥店ヲ設ケ及ヒ之ヲ轉シ及ヒ調藥ヲ販賣スルトニハ之ヲ適用ス可カラス但第八十條ハ此限ニアラス(八十條ニハ中央官署ハ調藥師ノ爲メニ調藥價表ヲ作ルヘシ但相對ニテ其價ヲ減却スルトヲ得ルト定メリ)

又上院ノ本局ハ如何ナル調藥品ヲ自由ニ販賣シ得ヘキヤヲ定ムヘシ則チ千八百七十五年一月四日ノ調藥販賣布告ヲ發シテ之ヲ定メ

タリ(獨逸法律全書第五葉)

營業規則第八十條ニ從テ發スヘキ調藥價表ハ今日マテ未タ發セス
故ニ普魯西國ニ於テ調藥店ヲ設ケ又ハ轉スルニ付テハ從來ノ法律
ニ從フヘシ就中普國法律全書第二篇第八章第四百五十六條ヨリ第
四百七十四條マテニ從フヘシ但其後ニ法律ヲ發シ此箇條ヲ變シタ
ル所ハ新法ニ從フ可シ

第四百六十四條ニハ新タニ調藥店ヲ設クルニ付キ其許可ハ止タ政
府ヨリ之レヲ爲スヘシトアリ

普國法律全書ヲ發シタル後千八百一十年十月一日ニ改正調藥師規則
ヲ發シテ調藥師一般ノ事柄ヲ定メリ此規則ハ其後更ニ改正アリタ
レモ仍ホ今日ハ一般ニ行ハレリ(リヨン子氏ノ普國法律全書第二

篇第八章第六款ノ増補トナレリ)

此規則ノ第二條ハ調藥師ノ特權ハ一地方ニ於テ土地ニ屬セシメ世
襲ノモノニシテ亦之ヲ讓與賣買スルヲ得ヘシト定メリ然レトモ其
人一代ニ限り其權ヲ與ヘタルモノナレハ特別ナリトス

千八百四十五年一月十七日ノ營業規則第五十四條ニ從ヘハ調藥師
ハ免許狀ノ外ニ州長ヨリ許可ヲ得ヘシ其許可ニハ調藥販賣地方及
ヒ其土地ヲ定ムヘシ但其許可ハ土地ニ附著スル特權ヲ備ヘサルモ
ノニ限ルヘシ

千八百四十五年ノ營業規則ニ因テ與ヘタル許可ハ其人限りノ者ナ
レハ調藥師ニハ二ノ種類アル理ナリ則チ特權ヲ有スル世襲ニシテ
賣買讓與ヲ爲スヲ得ヘキ者ト及ヒ許可ヲ得タル其人限りノ者ニシ

ノイハッス氏説明下

テ相續賣買讓與ヲ爲スヲ得サル者トセリ

然レモ實際ニ於テハ此區別ヲ爲サス又卿ノ指令及其指令ニ付キ發シタル布告ニ於テ一人限リノ許可ヲ得タルモノヲ今日ハ相續賣買讓與ヲ爲スヲ得ヘキモノト定メタリ

第二 獨立シテ調藥ヲ爲スニハ(調藥店ヲ所有スル爲メニ非ス)千八百六十九年ノ營業規則第二十九條ニ從テ免許狀ヲ要ス其免許狀ハ學力ヲ證シタル上ニテ之ヲ交付ス可キモノナリ

調藥師及ヒ其手傳人ノ試験ニ付キ千八百四十五年三月五日ニ布告ヲ發シタリ

調藥師ニハ專賣ノ權アルヲ以テ又或ル義務ヲ負フヘキモノナリ則チ晝夜ニ限ラス其店ヲ公衆ノ爲メ開クヘキヲ或ル藥品則チ藥劑表

ニ掲ケタル藥品ヲ之レニ定メタル品位ニ從テ貯置クヘキヲ其價ヲ表ニ掲クル定價ヨリ多ク取ル可カラサルヲ其價ハ文部卿ヨリ藥品ノ價ニ從テ年々之ヲ定ムヘシ又調藥師ハ郡ノ舍密家及ヒ縣廳ノ監督ヲ受クヘシ且三年毎トニ縣廳衛生掛ノ檢査ヲ受クヘシ
小店ナル調藥師ノ爲メニハ藥劑表ニ掲ケタル内ヨリ或ル藥品ヲ減シタリ

賞牌褒賞布告 千八百十年一月十八日

天帝ノ輔翼ヲ以テ普魯西國王タル朕「フリドリッヒウイルレム」ハ左ノ條々ヲ確定ス

國王ノ爲メ又ハ國家ノ爲メ有功ノ者ニ公ケノ記號ヲ與ヘテ之ヲ尊敬褒賞獎勵セント欲ス

之レカ爲メ從來普魯西國ニ在ル所ノ「ローテアードレルヲルデン」ニ二等三等及ヒ赤鷲ノ紐付キノ「ヘルダーンストメダイユン」ヲ増加ス

第一條 普國ノ賞牌褒賞ハ將來ハ之ヲ二種ニ分テリ第一種ノモノハ國家ノ爲メ有功ナル者ニ與ヘ第二種ノモノハ軍功アル者ニ與フルナリ

賞牌褒賞布告

第二條 第一種ニ屬スル者ハ黑鷲賞牌及ヒ一等二等三等ノ赤鷲賞牌

及赤鷲賞牌ノ紐付キノ金銀褒賞ナリ

第三條 第一種ノ者ノ順序ハ前條ニ掲ケタル如ク上ヨリ順次ニ階級ヲ定ムルナリ

第四條 黑鷲賞牌ハ千七百一一年一月十八日ノ規則ニ從フヘシ千七百一

月十八日フリドリーヒ第一世普國ヲ王國ト爲ス

第五條 一等赤鷲賞牌ハ千七百九十二年六月十二日ノ布告ニ從フヘシ但後來ハ従前ノ十字架ノ代リニ其色及ヒ大サハ變セスシテ其角ヲ削リ金ノ象眼ヲ爲サ、ル十字架ヲ用フヘシ此白ク「エマユ」ヲ掛ケタル十字架ノ中心ノ丸キモノ、一方ニハ赤鷲ヲ付ケ一方ニハ國王ノ略名則チ(エフ)(ヴェー)ノ字ヲ付クヘシ

新タニ設クル二等ノ赤鷲賞牌ハ同一ノ十字架ナレモ稍ヤ小形ナルモノナリ一等ノ綬ト同一ノ色ニシテ狭キ紐ヲ付ケ之ヲ領ニ懸クヘシ

新タニ設クル三等ノ赤鷲賞牌ハ同一ノ十字架ナレモ仍ホ狭キ紐ヲ付ケ之ヲ襟ノ釦ボタ穴ニ懸クヘシ

新タニ設クル賞牌ニハ胸ニ懸クル星ヲ附ケス一等賞牌ニハ胸ニ掛ケル星ヲ附加セリ此賞牌ト他ノ賞牌ト同時ニ佩用スルコトヲ得ルヤ否ハ別段ニ之ヲ定ムヘシ

第六條 金銀褒賞ハ赤鷲ノ紐ニテ襟ノ釦穴ニ懸クヘシ其紐ハ白地ニシテ兩端ニ黄色ノ縁ヲ付クヘシ

此褒賞ハ各同一種ノモノナレハ同時ニ之ヲ所持スルヲ得ス

第七條 第二種ノ賞牌ニ屬スル者ハ從前ノ勳功賞牌及ヒ黑地ニ白線ヲ取リタル金銀褒賞ナリ

第八條 此二種ノ賞牌ノ順序ハ前條ニ定メタル如ク上ヨリ順次ニ階級ヲ定ムルナリ但金銀褒賞ハ同等ニ屬スルモノナリ

第九條 勳功賞牌ハ後來ハ止タ戰時ニ軍功アル者ノミニ與フヘシ

第十條 褒賞モ亦軍功アル者ノミニ與ヘ千八百六年九月三十日ノ布告ニ從フヘシ

第十一條 第一種ノ賞牌褒賞ハ第二種ノモノト同時ニ佩用スルコトヲ得

第十二條 都テ賞牌及ヒ褒賞ヲ所持スル者ハ職務外ニ於テハ同等ノ者及ヒ同身分ノ者ヨリ其重立タル者トシテ尊敬ヲ受クル權アリ

第十三條 黑鷲賞牌及ヒ一等赤鷲賞牌ヲ佩用スル者ハ軍人ヨリ尊敬ヲ受クヘキ權ヲ有セリ則チ番兵ヨリ捧銃ノ禮ヲ受クヘシ黑鷲賞牌ヲ佩用スル者ニ對シテハ其外ニ番兵ハ銃砲ヲ携ヘスシテ兵廠ヨリ出テ、敬禮スヘシ軍功ヲ尊敬スルコトハ軍人ノ要務ナリトス故ニ番兵ハ金銀褒賞ヲ佩フル者ニ對シテハ建銃ノ禮ヲ爲シ勳功賞牌ヲ佩フル者ニシテハ肩銃ノ禮ヲ爲スヘシ
賞牌褒賞ヲ佩用スル者ノ賞牌褒賞ヨリ尊キ敬禮ヲ爲スヘキ官等ノ者ニ對シテハ其官等ニ對シ敬禮ヲ爲スヘシ

第十四條 賞牌褒賞ヲ以テ自紋ニ裝飾ヲ爲スコトハ其所有者ニ於テ勝手タルヘシ又賞牌褒賞ハ死人ヲ尊敬スル爲メ葬式ノ帑之ヲ用フルコトヲ得其勳章ハ記念トシテ其家族ニ留ルコトヲ得賞牌ハ返納スヘシ

第十五條 賞牌褒賞ヲ給スルコトハ國王自カラ規則ニ從テ之ヲ給スルナリ

其手續ノ詳細ハ別ノ官署ニ之ヲ委任ス其官署ハ賞牌褒賞ヲ造リ及ヒ所持人ノ氏名簿ヲ作り之ヲ返納シタルカ又ハ更ニ給シタル者ヲ加書シ其拔萃ヲ國王ニ差出シ國王ヨリ求メアルキハ其詳細ヲ具申シ及ヒ國王ノ命令ヲ施行スヘシ其費用ハ別ニ之ヲ給スヘシ

第十六條 普國ノ賞牌褒賞ハ大功アル者ニ限り給スヘキ者ナレハ其所持人ノ員數ヲ僅カニ定ムヘシ然レモ國家ニ大功アル者ニハ別ニ給セサルヲ得ス

故ニ新タニ設ケタル赤鷲ノ賞牌ハ先ツ當時ハ三等ノミヲ與ヘ二等ハ後來ノ有功者ノ爲メニ保存スヘシ

第十七條 國王自カラ賞牌褒賞ヲ給スレハ之ヲ取上クルキモ國王自カラ之ヲ命スヘシ之ヲ取上ケサル前ハ身体生命ノ罰及ヒ名榮ニ關スル罰ヲ執行スルコトヲ得ス(城塞禁獄及ヒ禁獄ハ此限ニ在ラス)賞牌褒賞ヲ取上クル罰ハ都テ名榮ニ係ル所爲ニ科スル者ニテ就中文武官ノ勇氣ナキカ或ハ忠節ニ非サルカ或ハ品行惡シキカ爲メニ科スルモノナリ且刑法ニ處セラレタル者ハ通常ハ之ヲ取上クヘキ者ナレモ場合ニ因リ國王ハ其情狀ヲ酌量シテ取上ケサルコトアリ賞牌褒賞ヲ有スル者ニシテ此ノ如キ罪ヲ犯シタルキハ官署又ハ長官又ハ裁判所ヨリ其終審判決ヲ國王ニ具申スヘシ然レモ裁判官ハ是等ヲ取上クルコトヲ判決スルノ權ナシ且都テ本項ニ抵觸スル規則

ハ廢止スヘシ

千八百六十六年九月三十日布告

普魯西國王カ軍人ノ有功者ニ褒賞ヲ從來ヨリ與ヘシトカ國家ノ爲メ
 ニ大ニ利益アルコトヲ實見シタリ則軍人ノ之ヲ得シカ爲メ勇氣ヲ獎勵
 スレハ之ヲ與フルヲ以テ公然ナリトス故ニ國王ハ褒賞ヲ得ヘキ功ヲ
 公ケニ知ラシメ且之ニ因テ褒賞ヲ與フルコトハ隨意ニ非サルコトヲ證ス
 ルノミニアラズ卓絶シタル軍功ノ標記ト爲スヘキコトヲ至當トセリ此
 目的ヲ達センカ爲メ國王ハ左ノ條々ヲ確定セリ

一 軍功褒賞ハ拔群ノ勳キヲ爲シタル者ニ限り之ヲ與ルコトヲ得其
 勳ハ掠奪又ハ不正ノ舉動ヲ以テ爲シタル者ニアラスシテ其職務

又ハ同僚ノ爲メニ爲シタルハニ限ル通常軍役中ハ褒賞ヲ求ムル
 ノ權ナシト雖モ特別ニ非常ナル軍功ヲ著ハシタルハ之ヲ求ム
 ル權アリ非常ナル軍功ヲ著ハシタルコトカ褒賞ヲ得ルニハ缺ク可
 カラサル要件ナリ且不公平ナルコトナク其勳ノ誠實ナルコトヲ其長
 官及ヒ同僚ノ證據立アルコトヲ要ス

二 特別ノ勳アリタルコトノ證據アルハ之ヲ「コンマンデーレンデ
 ゲ子ラール」ニ通申シ「コンマンデーレンデゲ子ラール」ニ於テ褒
 賞ヲ與フヘキ者ト認メタルハ「コンパニ」ノ集合シタル前ニ
 於テ自カラ之ヲ交付スヘシ初メテ褒賞ヲ與フル者ニハ下士又ハ
 兵卒ノ區別ナク黒地ニ白線アル銀ノ褒賞ヲ與フヘシ已ニ褒賞ヲ
 得タル者ノ一層拔群ナル功アルハ最初ノ如ク集合シタル前ニ

賞牌褒賞布告

於テ下士又ハ兵卒ノ區別ナク銀褒賞ヲ返納セシメテ更ニ金褒賞ヲ給スヘシ金褒賞モ黒地ニ白縁ノ紐ヲ以テ佩フヘシ

下士ニハ金ノ褒賞ヲ與ヘ兵卒ニハ銀ノ褒賞ヲ與ヘタリシ従前ノ法ハ廢スヘシ銀ノ褒賞ハ金ノ褒賞ヲ得ヘキ一層拔群ノ働ヲ爲スノ獎勵トナルヘシ

三 金ノ褒賞ヲ得タル者ハ一ヶ月ニ一「ターレル」ノ附帶金ヲ受クヘ

シ其附帶金ハ「フーベルキリー」グスコレ「ギウム」ヨリ受取ルヘシ

軍 事 役 所

金ノ褒賞ヲ得タル者戰時ニ創傷ヲ負ヒテ不具ト爲リ因テ恩金ヲ得ルカ又ハ不具者ノ保養所ニ入ルカ又ハ不具者隊ニ入ルト雖モ其附帶金ヲ得ヘシ然レモ其不具者ノ文官ニ使用セラル、モハ褒賞ハ所持スルコトヲ得レモ附帶金ハ失フヘシ

不具ニ非サル下士兵卒ヲ解免スルモハ褒賞ハ所持スレモ附帶金ハ失フヘシ然レモ二十年勤メタル者ハ仍ホ其附帶金ヲ受クヘシ
休暇ヲ得タル下士兵卒又ハ病院ニ在ル者ハ附帶金ハ得レモ給料ハ之ヲ給セス

四 金銀ノ褒賞ヲ得タル下士兵卒ノ死去シタルモハ其褒賞ヲ軍團司令長官ニ返納スヘシ司令長官ヨリ「フーベルキリー」グスコレ「ギウム」ニ送付スヘシ然レモ其者ニ妻子アルモハ其妻子ノ所有ト爲ルヘシ

己ニ解免セラレタル下士兵卒ノ死去シタルモ亦同

五 褒賞ヲ所持スル下士兵卒ハ杖ヲ以テ之ヲ撻ツコトヲ得ス劍ヲ以テ之ヲ打ツヘシ

六 杖ヲ以テ之ヲ撻ツヘキ所行アリタルハ先ツ褒賞ト附帶金ヲ
取上クヘシ褒賞ヲ賣ルカ又ハ賭スルハ附帶金ヲ沒スヘシ
七 褒賞ヲ所持スル下士兵卒ノ士官ニ轉スルハ褒賞ハ之ヲ所持
スルモ附帶金ハ之ヲ失フヘシ

八 已ニ褒賞ヲ所持スル者ヲ一層之ヲ公ケニシ且後世ニ記念ヲ殘
ス爲メ其所持人ノ氏名ヲ各「レギメント」又ハ「バタイヨン」ニテ附録
ニ記セルカ如ク板ニ記載シテ之ヲ陳營附屬ノ寺院ニ揭示スヘシ
此布告ハ褒賞ヲ得タル者ニ種々ノ利益ヲ與フルモノナレハ之ヲ
與フルハ必ス前數條ノ規則ニ從テ與フヘシ故ニ國王ハ「コン
マシザー」レンデルグ子ヲ「ル」ニ之ヲ公平ニ與フヘキ義務ヲ負ハ
ルニ
軍 團 司 令 長 官
シム

已ニ褒賞ヲ所持スル者ハ従前ノ如ク黑紐ヲ以テ佩フヘシト雖モ
新ニ設ケタル褒賞ノ附帶金其他ノ利益ヲ求ムルヲ得ス其褒賞
ハ銀ノ褒賞ト同等ニ看做ス可キカ故ニ其後一層功アルハ已ニ
所持スル褒賞ノ金銀ニ拘ハラヌ之ヲ返納シテ金ノ褒賞ト附帶金
ヲ受クヘシ

附録

軍人ノ功

キリシヤノ軍人ノ功

千八百六年ノ出陣

歩兵大隊第一「カラ」フホシク「ンハイム」
人 名

賞與スヘキ者

一等 下等士官「アウグストシニルツライブコンバニ」伯林人「ワ

賞牌褒賞布告

イデンニ於テ十月十六日

ムスケートヨハンミルレルコンプヲブルツーメンマフイ

人ワイデンニ於テ十月十六日

シユツチエヨハンレムケコンプガヒットウエルデルセー

レンドルフ人ノールドリッゲンニ於テ十月三十日

二等 下等士官

フリドリーヒプロイスライプコパニールト

一人ワイデンニ於テ十月十六日

シヨツチエヨワヒムクリューゲルライプコンパニールポツタ

ム人アンベルヒニ於テ十月二十四日

ムスケートガラルブマ子ツケコンプク、トシユエリエン

伯林人ノルドリッゲンニ於テ十月三十日

ムスケートキリストールエッセルコンプク、トトレスコ

シドウ人フリドブルクニ於テ十一月十二日

シユツチエカスバルグットケイコンプカピトウエルデルブ

フホルツ人シーゲンニ於テ十一月二十日

コロ子ナルデンヲ造ル布告千八百六十一年十月十八日

王冠賞牌

天帝ノ輔翼ヲ以テ普魯西國王タル朕ウイルレムハ即位ノ日ヲ遺忘

セサルカ爲メ一賞牌ヲ造リ之ヲキヨニフリヘルコロ子ナルデ

ント稱スルヲ決セリ此賞牌ニハ四種アリ其徽章ニハ金地ニ白ク

「ユマユ」ヲ掛ケ金線ヲ取りタル幅廣キ十字架ヲ選ヒタリ十字架ノ上

賞牌褒賞布告

ニメダユン」ヲ着ケ表面ニハ磨ナキ金地ニ國王ノ冠ヲ付ケ其周圍ニハ青キ「エマユ」ノ輪ヲ作り其輪ノ上ニ國王ノ王家ノ傳訣（ゴツトミツトウンス）ヲ金字ニテ獨逸語ヲ以テ記スヘシ其裏面ニハ磨ナキ金地ニ王ノ冠ヲ國王ノ略名ノ上ニ戴カセ其周圍ニハ青キ「エマユ」ノ輪ヲ付ケ其上ニ金字ヲ以テ之ヲ造リタル年月日ヲ記スヘシ此賞牌ノ一等ヲ所持スル者ハ濃青ナル四ツオル」ノ幅ノ綬ニ付キタル十字架ヲ右ノ肩ヨリ左ノ腰ニ佩フヘシ其左ノ胸ニハ八股ノ銀星ニ十字架ノ表面ノ「メダイユ」ヲ着ケタル賞牌ヲ掛クヘシ二等ハ之ヲ星アルト星ナキト二種ニ分ツ其十字架ハ一等ヨリハ稍々小ナリニ「ツオル」ノ幅ノ紐ニテ領ニ掛クヘシ其星ニハ一等ノ星ノ「メダイユ」ヲ付ケ銀製ニシテ其形四角ナリ之ヲ左ノ胸ニ掛クヘシ三等ハ其十字架ハ二等ヨリハ稍

小ナリニ「ツオル」半ノ幅ノ紐ニテ襟ノ釦穴ニ掛クヘシ四等ハ鍍金ノ十字架ニシテ兩面ニ「エマユ」ノ「メダユン」ヲ付ケ襟ノ釦穴ニ掛クヘシ王冠賞牌ハ他ノ普魯西ノ賞牌ト並ヘ佩フルコトヲ得國王ハ王冠賞牌ヲ赤鷲賞牌ト同等ノ者ト看做セルニ因リ此ニ賞牌ヲ同時ニ佩用スルコトニ付キ左ノ條々ヲ定メリ

- 一 王冠賞牌及ヒ赤鷲賞牌ノ一等二等ノ星ヲ與ヘタルキハ同等ノ星ノ後ニ與ヘタルモノハ最初ノ星ノ上ニ掛クヘシ然ナカラ最初ニ與ヘタル綬ハ上著ノ下ニ佩フヘシ
- 二 赤鷲賞牌ノ大十字架ヲ佩フルキハ王冠賞牌ノ星ハ赤鷲ノ星ノ下ニ掛ケ王冠賞牌ノ十字架ハ領ニ懸クヘシ
- 三 黑鷲賞牌ヲ佩フルキハ一等王冠賞牌ノ星ハ黑鷲ノ星ノ下ニ掛

ケ王冠賞牌ノ十字架ハ領ニ掛クヘシ

千八百三十年一月十八日ノ赤鷲賞牌ノ二等ヲ二種ニ分ツ布告

國王ハ赤鷲賞牌二等ヲ二種ニ分チ其一種ヲ上等ノモノトシ從來ノ徽章ノ外ニ四角ノ星ヲ造リ其上ニ一等ノ星ノ中心ニ二等ノ十字架ヲ著ケ之ヲ從來首領ニ掛ケタルモノト同時ニ左ノ脚ニ掛クヘシト決セリ故ニ從來ノ二等ハ今ヨリ星アルモノト星ナキモノトニ分ルヘシ星ナキモノハ單ニ二等ト稱スルノミ「アイヘンラウプ」ノ有無ノ區別ハ從前ノ通タルヘシ「アイヘンラウプ」及ヒ星ヲ有スルト記シタル命令書ヲ「ゲ子ラールラルデンスコミッション」ニ下付シタルハ星ノ上ノ十字架ニモ「アイヘンラウプ」ヲ著クヘシ其他國王ハ一等褒賞ヲ四等

ノ赤鷲賞牌ト爲シ其他銀ノ褒賞ノ形ハ從前ノ儘ニシテ「國家ノ爲メ有功」ノ文字ヲ記スヘシ四等赤鷲ノ銀ノ十字架ハ今ヨリシテ三等ノ十字架ニ等シク高キ鷲ヲ著クヘシト決セリ當時一等褒賞ヲ所持スル者ハ別ニ勳章ヲ與フルコトナクシテ四等赤鷲賞牌ヲ所持スヘシ然レモ從來ノ十字架ハ之ヲ交換セサレモ此布告ニ從テ新ニ製造セシムルコトハ所持人ノ隨意タルヘシ

千八百六十二年十月十八日赤鷲賞牌ノ大十字架ノ一等ヲ二種ニ分ツ布告

國王ハ一等赤鷲賞牌ヲ今ヨリ二種ニ分チ一種ヲ上等ト爲シ「グロースコロイツ」ト稱シ一種ハ是迄ノ通タルヘシ

大十字架

賞牌褒賞布告